





西行
月岡芳年
落合芳幾

江戸昭和贋作
無惨絵

Bloody Ukiyoe - n. 1860 & 1888
花和一
丸尾木廣

Photographed by
K. Hanawa,
S. Maruo,
Yoshimichi
Yoshihiko

リロジー
LibrePrint

Photo by
K. Hanawa,
S. Maruo,
Yoshimichi
Yoshihiko

画【昭和】
丸尾末廣
花輪和一
月岡芳年
画【江戸】
落合芳幾

B l o o d y U k i y o - e i n 1 8 6 6 & 1 9 8 8

江戸昭和競作
英名十八衆句 惨絵

Painted by
S.Maruo,
K.Hanawa,
Yoshitoshi,
Yoshiiku

讚

二〇世紀末嗜好症
あかね 桃魚

荒俣宏
ほとばしる良識あふれる侠気

模図かずお
ドラマチック、こそ恐怖なのだ！

アナタの血は美味しくない
遠藤ミチロウ

ワインレッドの——たたり——血と臓腑の香

『清潔』な時代の『汚れた血』

太平に倦む

モクセイ

卷之三

昭和無残絵の期待

解說

高橋克彦

今、なぜ残酷絵なのか

新英名 千人衆句

赤ずきん 未廣筆

末廣筆
和筆

フリッツ・ハルマン
都井睦雄
一郎 晴山
末廣筆
和筆
末廣筆

柳風也 和筆

江戸川乱歩 末廣筆
磯良と正太郎 和二筆

英名二十八衆句

月光仮面と分家嫁	水田洋子	俊	木廣筆
白虎隊	和筆		
ビーターキルクン	未廣筆		
富姫	和筆		
大久保清	木廣筆		
寸法師と殿上人	和筆		
甘粕止彦	木廣筆		
眠り男	木廣筆		
河内屋兵衛	和筆		
夢野久作	和筆		
源頼光と酒呑童子	和筆		
アーヴィング	木廣筆		
芳年と幻大夫	和筆		
勝間源五兵衛	芳幾筆		
遠城治左衛門	芳年筆		
遠城晉六郎	芳幾筆		
邑井長庵	芳年筆		
白井權八	芳年筆		
鳥井又助	芳幾筆		
稻田九藏新助	芳年筆		
浜島正兵衛	芳幾筆		
由留木素玄	芳年筆		
げしき美代吉	芳幾筆		
御所五郎藏	芳年筆		
佐野治郎左衛門	芳幾筆		
因果小僧公之助	芳年筆		
国沢周治	芳幾筆		
高倉屋助七	芳年筆		
西門屋啓十郎	芳幾筆		
妃姫の於百	芳年筆		
鞠ヶ瀬秋夜	芳幾筆		
直助權兵衛	芳年筆		

解説

宗谷真爾

【英名二十八衆句】について

清潔な時代の汚れた血

三本二四

1

「自分見の血や内臓をみるとはとてもおそろしい、もがくすると幽霊や怪物を見るよりもおぞろい。だから私は自分の身体の表面としかつきあっていない。」と毛か舌を伸ししからぬ。身体のなかにあの臭氣味悪い悪魔器皿や血がいっぱいに詰まっていることを忘れてはいる。それがケガをして時などに突然現われ異形の姿

太平に倦

卷之三

宗谷真爾

◆芳年における「衆句」は言うまでもなく、「衆苦」と重なつてゐるが、二十八とあるからには、二十八宿、すなわち日月や惑星の運行する定位にまつてゐる。

瀬木慎一

もー今、芳年が

曼珠沙華の花粉のような

作家

◎かつて、方半、方綾といふ二人の下の僕が、講義堂の求めに応じて
作家

手筋がわざとされたら、原宿の酒の店で、君たをもとまでを通りはじめた。井戸端人、黒川、洋美として、幻想空間を歩いていく。心ひて改修したばかりの家の壁にむかって、壁にのらむ新作花輪さん。五色の花の、君二十八衆句を後戻す姿を、おもむろに見つめる。その作風は、愛おしい花の花粉のよろなかのファンタジアを奏でている。

○

昭和無残絵の期待

都筑道夫

◆かくて、時代劇の多様な変貌にじぶん後ろには残るかとおもふ。

世話が叶ひぬが、時代劇の脚本にまづいた都筑の新作だ。今しも吉高野舞をはじいたが、いまことにむづくめの新作花輪さん。

て改修したばかりの家の壁にむかって、壁にのらむ新作花輪さん。

五色の花の、君二十八衆句を後戻す姿を、おもむろに見つめる。

見て、あらためて血の色の意味を考えてみた。

◆かくて、時代劇の脚本を、保存するオリジナルで、見たときの胸もぎは、われれどない。

◆そのうちの、なんばうは、単色の背景版で、子どもとそぞく、見たい。

◆あつた、血の色は薄墨になり、不思議な、怖い。

◆けれど、オリジナルの血の色、死相を見るよ、そこにあるのは、

絶命を終末だけではない、人間、運んでから死までの平安のすべて。

細野晴臣

丸尾さん花輪さん

細野晴臣

◆まるで、死相の、撮りを、保存するオリジナルで、見たときの胸

もぎは、われれどない。

◆そのうちの、なんばうは、単色の背景版で、子どもとそぞく、見たい。

◆あつた、血の色は薄墨になり、不思議な、怖い。

◆けれど、オリジナルの血の色、死相を見るよ、そこにあるのは、

絶命を終末だけではない、人間、運んでから死までの平安のすべて。

Pictures in blood: why now? Katsuhiko Takahashi

今なぜ残酷絵なのか

高橋克彦



◆今からおよそ百二十年前の慶應二年（一八六六年）浮世絵の世界に毒々しくも華麗な血の花が咲いた。その血みじみの「十八枚」を分担執筆した絵師の名は歌川国芳門下の「後夷」の号で、芳幾と芳年。明治維新近の、いかに世情が冷たし殺伐たる時代であったにしろ、全編を血で買つて貢献したこの作品の出版は江戸の人々に恐怖と不安を与えたことであろう。

◆なぜ、血なの？ それは今も答えない質問だ。様々な分野の才能が「英名二十八衆句」の持つ怪しき魔力に魅せられ論議や感想を残している。芥川龍之介が自殺当日にこの「十八枚」を眺めていたという、いかにもそれらしい噂や、江戸川乱歩が最も愛し、小説のイメージを膨らます手掛かりにしたといふ挿話。三島由紀夫が後の事件の直前に英名二十八衆句の挿しを入手しようとな奔走したこと。作品と同様にエピソードもまた誰やかだ。三島は昭和四十六年春に出版された英名二十八衆句の超豪華画集「血の喰食」にも序文を寄せてゐる。三島事件は前年の二月のことだから、ほとんど死直前でしたためられた文章だろうとすれば、描くべき手しようとした背景には特別の意味があつたのかも知れない。まさか絵が引き金となって、斧つて、芥川、三島の両天才を死に招いたとは思はないが、死を決意する人間にとって英名二十八衆句が目美なる民であることは確かだ。血とエロスなどといふ哲学的な解釈よりも、この作品群には人間の存在を否定し嘲笑う魔が潜んでいる。死体写真を見られる死は、たたの醜い物体としての死でしかないが、英名二十八衆句に描かれた死は、殺人者との対立があるゆえにか美しく躍動している。しかも、殺人者になれない自分は死者の立場で絵を眺めなければならない。と考えたとき、その死のなんと簡単で意味のないことか。結構はどんな間も血をたっぷりと詰め込んだが容器といふレベルで同じなのである。血に理屈などない。だからこそ血に怯える。言葉のように人それぞれが違う色の血を流さなければならぬのである。血に理屈などない。だう。芥川も三島も恐らく他人と変わらない自分の血を英名二十八衆句の上に見ただのだ。それは恐らく死への

り出ない代り、もっと愛せるのが出ます。おそらくそれは、カルマのようならものじょが御時者共、そのカマをエントレーナメントしてらっしゃるのです。面白いのです。あれは、むかと出すことが宜しいようです。

◆僕は気が弱くて、血液が恐いのですが、それでも、つづく丸尾さんの本を買ってきました。その血の絵画を私がしてしまったが、無残絵は長いあいだ、表題であらわれない芸術でした。子どものままでいたい。また、單色版は、児童書で、児童の本の底に、隠されいたたずねた、萬葉、芳年を発見する。それが、ついで、そのうた、萬葉、芳年をもつといふ、勇義、芳年を思い出しながら、昭和の無残絵を見て、あらためて血の色の意味を考えてみた。

願望を促すよりも、もっと積極的な生への諦めに作用する。それゆえにこの作品群は危険なのだ。死を意識した人間にとって背中から崖に突き落とす腕にも等しい。

◆けれど、それは平和な現代における解説に過ぎない。発表された当時、江戸の人々はもつと現実的な恐怖としての「十八衆句」を受けとめたことだろう。我々は歴史の上これまで二年後の幕府の瓦礫を知っているが、彼らはそれを知りもしない。だが、激しい嵐の夜のそれから二年後、幕府の崩壊が今をもたらすか、その先の想像はだれにもできない。黒船の来航がそれに指揮をかけていた。確実に時代は変わろうとしていたのだ。しかし、それを分かつてはいながら、だれもかみを抜け、耳を覆った。無理もない。施政者が変わらざるなら対応もできただろうが、彼らによって外国の出現は思惑をはるかに越えた問題だった。予測などできるわけもないのだ。価値観も違えば生活も異なる人間の侵入に対する対処のしようもない。その不安を押し破るようにして、ええじゃないか、ええじゃないか反動が巻き起こる。嫌なことを考えて悩んでも仕方がな。呑気に構えてもええじゃないか、といふ興奮感だ。つまりは恐怖と混乱の絶頂である。

英名「十八衆句」が生まれたのは、まさにこの時代だった。人々はせつかく忘れていた不安を喉元に突き付けてはよう気分に襲われる。と解わかることの恐怖は、逆にこの画集は歓迎された。されど、怖いもの見なきから単純な歓迎でもない。より怖いものを一人に引き受けられてホントしたのである。時代が変わることの恐怖は、突き詰めて言うと、生活への不安が最大のポイントだ。暮らしでいるかげないかの問題は、生きるか死ぬかの問題にまで発展する。だれもがそれを分かつては怖くて口にはできない。そこにこの画集の登場だ。テーマはすべて殺人。いつたん地獄を見れば、どんな恐怖も耐えられる。時代がどんなに厳しい方向に動いたとして、まさしく英名「十八衆句」に描かれた世界よりも酷くはない。それが人々はこの絵によつてつきりと知らされたのだ。生き残る血に寒氣を覚え実感的な恐怖と戦ひながら、ホント安堵の息すら吐いたに違いない。時代の要求でもあった。

と言つて、肝腎の芳幾と芳年の末來への恐れがはつきりとあつたかどうかは……分からぬ。けれど画面全部を血で埋めつくすことによつて、なにかを喰らいたい話題たのは確かなはずだ。それが自分を裏う不安なのか、国家なのか、大衆の安穏なのか、見せかけの日常なのか。あるいはそのすべてだろう。その意味でもとの英名「十八衆句」は稀有の画集なのである。血は怒りであり、勇気であり、諦めであり、また逃避でもあつた。

◆そして……一百二十年が過ぎた今。

◆花菱和と丸尾末廣が新たに新英名「十八衆句」を描いた。これはパロディではない。また英名「十八衆句の再確認」でもない。芳幾と芳年のときのように、また時代がそれを要求しているのである。時代は病ん

でいるのだ。ボロボロに崩壊しそうな気配を感じ、二人の筆を借りて我々に訴えかけようとしている。警告を發している。

◆夏でもないのに世界にはスマラッタム・ビーフが氾濫し、アメリカ人はまた戦争をやりたがつていて『「フレートーン』や「サルバドル』を反戦映画だと信じて觀ている間抜けはともかく、多くの人間が血を求めてうずうずしている。未來のない國家と自分にそれぞれが不安と恐怖を抱いている。

◆だからこそ血と戦争に傾いていく。

◆ケネディのときに約束されていたはずの人類の締ける未来などとつぶくにどこかに消し飛んでしまった。なぜなのか？

◆世界中の人々が、ちょうど百二十年前の日本人のようになに國家の壊滅と黒船の来航に怯えているのだ。この比喩では分からぬ。はつきり書くと黒船はじつのことである。アメリカでは実に七〇ペーセント以上の知識人がUFOとエイリアンの存在を信じている。まさに今の地球上にとつては個體觀と生活の異なるエイリアンの存在は、江戸人にとっての黒船に他ならない。もし彼らが本当に実在して、今後自分たちの世界に侵入してくれば、いつたいどんな社会に変貌していくのかだれにも予測がつかない。その潜在的な怖さと不安がアメリカを病める国家に変えた。未來を担うべき世代であるはずのルーカスやスピルバーグは早くも未来を諦め過去に戻っていく。リドリー・スコットやジョン・カーベンターはモンスターと戦う暗い未來しか想定できぬ。我々が考える以上にアメリカ人はUFOを現實としてとらえているに違いない（八千万人近くが熱狂して眺めたという「UFOマーチ」はSF映画の世界で「エイリアン2」「UFO」が反撃を開始したのは、そういうアメリカ人の不安が裏返しになつたものだと解釈している。

◆その不安は間もなく日本にも上陸するだろう。いや、すでに若い世代には浸透しているのかも知れない。彼らは物心つかない頃に日本にストラーダムの洗礼を受けている。一九五九年以降の未來など存在しないと断言する若者もたくさんいる。それが根底にあるから、彼らも二十歳前後の若さで過去にこだわる。ことわざことで短い人生を二倍にしようと必死なのだ。未來への願望の持てない世代の悲しみなど、大人には分かりっこない。



◎About 120 years ago in 1866 (Meiji 1 year) of 'Kōei', the world of Ukiyo-e saw the blooming of the flower of blood. These flowers were both gaudy and splendid. The artists who had part responsibility for the drawing of these 28 bloody pictures were Yoshiiku and Yoshitsuki, who were also known to be great artists. They both studied art under Kuniyoshi Utagawa. Even though society at the time was in chaos and violence existed everywhere prior to the Meiji Restoration, the publishing of these bloody pictures probably raised fear and anxiety for the people of Edo.



◎Why the fascination with blood? This question still cannot be answered today. Many people who had talents in various fields were fascinated by "Eime Niijūshikku," mysterious charm and as a result they left essays in the theater. There was a plausible rumor that Kyūtozō Akitagawa had been looking at these 28 pictures on the day he committed suicide. Also, there was another episode that Kanzo Ogawa loved these pictures, the man who was also been said that Yūki Mishima tried to get a set of Eime Niijūshikku just before his death.

◎The episodes that go with them are also gay. In fact, Mishima wrote a short preface to the hellish edition of "Dinner of Blood" concerning "Eime Niijūshikku" which was published in the spring of 1971. He said, "I don't think that these pictures have been written right before their death. If that was the case there must have been some deep feelings behind the fact that he tried to get a set of "Eime Niijūshikku". I don't think these pictures invited Akitagawa and Mishima to their tranquillity or just the make believe of everyday? Or could it be for all reasons. Even in that sense, too, "Eime Niijūshikku" is a sweet trap for sure in this picture, more courage than that leads to denial of existence of human beings, giving birth to the idea that is shown in "Eime Niijūshikku" has a dramatic beauty objects. But the death that is shown in "Eime Niijūshikku" has a dramatic beauty because there is a painful confrontation between the murderers and their victims. Moreover,

I don't know if Yoshiiku and Yoshitsuki had any fear of the future. However, for sure they wanted to break something down by means of painting blood all over the canvas. Is it anxiety that overpowers the self or is it the country or the society's tranquillity or just the make believe of everyday? Or could it be for all reasons. Again, it was not a parody. And it's not a confirmation of "Eime Niijūshikku".

◎Kauchū Hanava and Shūhei Maruo had drawn the "New Eime Niijūshikku" again. It was for Conchiku and Yoshitsuki, society is requesting it again. This period is sick. They sensitively felt that society was about to crumble and they are borrowed

the brushes of the two artists to appeal to us. They are sounding off the alarm. ◎It's not even summer but there are many splatter movies and Americans want to get into splatter movies wars again. Besides those stupid people that think "Platoon" and "Salvador" are anti-war movies, many people are becoming impatient by seeing so much blood. They feel a type of anxiety toward the country and self that doesn't have any future.

◎That's why they are leaning toward blood and war. The bright future that was promised to mankind when Kennedy was the President of the USA disappeared again. Why is this?

◎People throughout the world are afraid of the fall of their country and the coming of the black ships like Japanese 120 years ago. People may not understand this metaphor. If I write it clearly, the black ships mean UFOs. In the states, more than 70% of educated people believe in the existence of UFOs and aliens. For man, the existence of aliens with different values and life styles is the same as what the black ships mean for the people of Edo. If they really exist and invade our world no one can imagine how our world is going to change. The latent fear and anxiety had turned America into a sick nation. Those generations of people like Lucas and Spielberg who are supposed to aim at the future gave up the future and went back to the past. Ridgely Scott and John Carpenter could only imagine a dark future which is only to fight with monsters, more than we may care to believe Americans are capturing the idea of UFO as a reality. Close to 80 million people watched the TV show "UFO" not deeply into it. The TV show "TV" presented a problem that was close to them and it wasn't just in the science fiction world. People could only live by forgetting the future and live day by day. The tomorrow everybody awaits is only in their imagination. Now there's blood. Blood is only medicine to enable them to forget fear. If you become a ghost, you're not afraid of ghosts.

It might sound like an opposite theory, but people could be completely free of the fear of death only if they are firmly attached to the team line. Attack becomes best defense. In other science fiction movies, they were only being attacked and they didn't fight back. It has been explained that "Alien 2" and "V" started to fight back because audiences that Americans feel came out in this way.

◎This anxiety will probably land in Japan any time. Well, maybe the young generation have already seen through the lies they were bashed by Nordranks. There are young people who says there is no future after 1999. Since they have thought at the bottom of their heart they think about the past. They are only about 20 years old. By being particular about it, they are trying to double their short lives. The adults won't understand the sadness of this generation that have no hope for the future.

The reason they are crazy about splatter movies and become inspired by Zombie movies at the bottom of this. The feelings of having lost all and hope is very strong. The young people are the ones who are scared of the future the most.

◎Also the era.

◎All we leave it alone, the era will collapse. Time uses the human sense of hope as bread for them to survive. If hope is taken away, time doesn't exist. Therefore Kazuichi Hanawa and Suehiro Maruo both influenced by time. These two are representatives chosen by time. They give stronger stimulus and fuel fear. For that purpose only "New Eime Niijūshikku" was drawn. By just looking at these selections of "New Eime Niijūshikku" we could see how right and how well it's answering the need of the time. But as for Yoshiiku and Yoshitsuki they also do not know "why all the blood?" We don't need any reasoning. The readers should shiver and disgust, and turn their eyes away from blood, then understand this. The value which is the same as before won't be valid this time. It means, we are fighting against a changing of time alone.





新英名 千八衆句



●これは恐らく不朽の名作として残るのではないか。赤ずきんの物語に腰された欺瞞をこれほど正確に、しかも直感的に描ききった人間などいない。グロテスクでありながら可愛らしささえ画面に漂っている。花輪和一が月光仮面を描き、丸屋末廣が赤ずきんを描いたことで新英名二十八衆句は意味を持つた、とすら私は思う。「血なんてこわくない 女の子だもん」という言葉は女性に生理のあることを踏まえて書いたのだ。そこにも彼の視点の確かさを感じる。自分の立場も分かっていない赤ずきんにおじちゃんどうもありがとう」とすがられたら、だれだって「まいっただなあ……」だ。泣かせる絵である。

● Most likely this story will live forever as a masterpiece. There is no one else that could draw the deception in "Little Red Ridinghood" as accurately as Mr. Maruo. Even though it's grotesque, it even has some cuteness as can be seen in this picture. I thought "Eimei Nijūhasshūku" had some meaning now because Kazuichi Hanawa had drawn Gekkōkamen and Suehiro Maruo had drawn Akazukin. The phrase that states "I'm not scared of blood because I'm a girl." is based on the fact all women have periods. Even based on this point we could accurately see his view point. An Akazukin who doesn't understand her position would cling to someone and say "Thank you uncle". Anyone would say "What am I going to do." It's a sad picture.

新英名三十ハ衆句

赤
すきん

丸尾
末廣筆

血なんてこわくない女の子だもん

狩人のあじさんか
狼のおなかを切りやすくと
中から赤ずきんちゃんが

出てきました
こうして赤ずきんちゃんは
めでたく助けられたり
でした

あじさん
どうも
ありがと

まいっただ
なあー



和筆

舌切雀と穴張娘

Shitakiri Suzume &
A Girl Who is Acting Tough
by Hanawa

When I was shown this picture, it stunned me. I think anyone would get stunned. If some people are particular about words, they should have noticed something from the content of this story. This story should have been named "Shitakirare Suzume"(Sparrow whose tongue was cut) instead of "Shitakiri Suzume"(Sparrow who cut the tongue). The latter sounds like the sparrow committed the crime. In "Jack The Ripper," Jack was the name of the criminal and not the name of the victims. There is not much blood shed but the uniqueness of imagination shines. However, to select this title for this cruel picture, I am amazed with his intelligence. It's probably coincidental but the kanji "Suzume"(Sparrow) is also read "Jaku". The sparrow might say "I'm the Japanese Jack The Ripper."

○この絵を見せられた時は突然とした。だれもがそっただろう。言葉にこだわる人間であればとくに気がついてもよがったことだ。物語の内容から考る限り、あれは「舌切られ雀」と名付けられるものである。「舌切雀」とあるからには、雀が犯行の主役のはずなのだ。ロンドンを震撼させた「切り裂きジャック」としても、犯人がジャックで、決して被害者の名前ではない。血こそ少ないが、発想のユニークさで光っている。しかし、残酷絵にこの題材を選ぶとは、なんとも果れ果てた才能としか言えない。偶然だろうが「雀」は「じゃく」と読む。日本の「切り裂き雀」たおおぐらのこじや。

へび少女

Snake Girl
by Mano

● 「へび少女」と耳にするだけで体を震わせる女の子たちがいる。それほど怖い名詞にまで成長しているのだ。模写かずおは本当に凄い。丸尾氏も熱烈なファンだと話していたが、私もその一人である。「イラ」「や列顛鬼」はマンガの城を越えている」「漂流教室」など十回以上は読み返した。近頃、は「神の左手悪魔の右手」に驚嘆している。あんなどつもない話をどうやつたら思ひ付くのか。解説とは離れてしまつたが、それだけに模写かずおの世界をあらためて作品化するのはむずかしいだろうとハラハラしていた。しかし、やはり丸尾末廣も只者ではない。原作とは別個の新たな恐怖を描いたのだ。パロディに落とせりメイクするのは至難の技である。

● There are girls that tremble with fear when they hear the word "Hebi shojyo" (Snake girl). This term has become a fearful noun. Kazuo Umezawa is really amazing. I heard Mr. Maruo made big fun of him, so do I. "Iara" and "Retsuganki" (The devil who wished intensively) has passed the limits of taste in comics. I have read the "Hyōryū Kyōshitsu" (the drifting classroom) over ten times. These days, I really like "Kami no Hidarite, Akuma no Migite" (God's left hand, Devil's right hand). How can he think up such absurd stories. That's why I was worried about putting Kazuo Umezawa's world on canvas. However, Suehiro Maruo is not an ordinary person. He had painted a new kind of horror based on the original. It's difficult to remake it without parody.

新英名三十八衆句
へび 少女

私もいつかは蛇になるだろうか？

洋子さんはこゝ頃
あかしい
ねと遊んでくれないし
一緒に学校へ行え
木もかしてくれない
好きな男の子ができ
たのかしら？

こあ周の雨の日 カミシは見てし
まきの
芽子さんはカエルを食べていた
どうでもよいしそうにムシキムシキ
芽子さんは病気絶体になおら
あんぬ病気絶体になおら
ないんじよないかしら
でもわたしはこの事を
誰にもしゃべらない
特に男の子には

だつて
私はどうとも
仲良しなが
もん

丸尾廣華

新英名三十八衆句

悪魔の
トリル

旅やまばと
鞆の中に香り

詰

瓶

灯

支度をとばらバラにして、それをとて重に
する。その写真を大きく
引き伸ばし。

衛生博覧会

全国を巡回して歩みます。
支度の写真ではいつも力強い子供
たちが舞うから、家に帰って学校に行き、支度の
話ををするのです。こんな素晴らしいことが
あらじょもあらじょも、支度には友達がないません
でしょ。でも死んでから支度する分か
う。それで支度が力強く動き出すよ。
そこで、私はもうくどいところを
抜き飛ばしました。

肉



和筆 梶間友彦

Tomohiko Kajima
by Hanawa

●これは私の小説から採用してくれたもの。衛生博覧会と言つても今では死語のようになってしまつたが、衛生観念の普及を隠れ蓑にして、実際は性器の蠟模型を飾つたり、暴行された女性の死体写真を見せたりの、グロテスクが売り物の見世物である。私も何度も子供の頃に怖々と眺めた。特に印象深いのがトランクに詰められて捨てられた子供の死体の写真だった。その鮮烈な記憶をもとに小説を構えた。筋立ては主人公が蠟人形だと信じて見つめたトランク詰めの美少年が、実際は本物の死体だったというのだ。頭にイメージしていた場面と絵が完全に一致していく空恐ろしい気分にさえなる。作者宣利としか言い様がない。

● This scene is adopted from one of my essays. Today the word sanitary exposition became a dead word. It was an exposition that displayed things like wax models of genitals, pictures of dead women who were raped. And other grotesque stuff hiding behind the popularisation of sanitary beliefs. I remember I looked at these things fearfully when I was a child. I was strongly impressed by the pictures of a child's dead body which was in a suitcase. I wrote this essay based upon this vivid memory. The plot of this story was that the main character was gazing at a body of a handsome boy who was in a suitcase believing it was a wax figure but it was actually a real dead body. Since the picture he had drawn was exactly that of the image I had in my mind so it scared me. It could only be said that this is a great joy as an author, to find that my exact image can be found in a real picture.

フリッツ・ハールマン

Fritz Hahlman
by Maruo

◎一九一九年から二四年までのドイツ、ハノーバー。この町に恐怖の連続殺人が発生した。被害者総数二十八名。すべて美しい青年ばかりで、殺害方法は喉笛を噛み切るという残酷さ。犯人はフリッツ・ハールマン。四十過ぎの典型的同性愛者。彼は殺した若者の死体を刻み、豚肉と称して実際に売りさばいていたのである。「戦慄の人肉工場」「現代の吸血鬼」と人々は恐れ、犯罪史上に名を残している。それ以上の説明は必要なからう。絵が誰かに細部を物語っている。描写にも震えるが、手柄は上に書かれた数え唄だ。よくもまあハールマンの心情をとらえたものだ。「色はにおへど血に濡る男」も大秀逸。萬流コピー塾でも上位入選間違いなし。

◎ From 1919 to 1924 in Hannover, Germany, there were successive murders that occurred which held this town in terror. The number of victims totalled twenty-eight. All were handsome young men. The murderer was Fritz Hahlman, who was a typical homosexual. He killed his victims by biting their throats open. He chopped up the bodies of these young men that he had killed and he was actually selling their remains saying that they were pork. People called him "the human meat factory" or "modern time vampire" and feared him greatly. He left his name on the list of history of criminals. I don't think I need to explain anymore. This picture tells the whole story down to the smallest details. I was impressed by the picture. But more than that, I was impressed by the copy above it. It captured Hahlman's feelings really well. The copy "A Man Who Got Soaked In Blood" was excellent.

新英名三十八衆句

フリツツ
ハーマン

色はにあへど血に濡る男

俺の街には四つの肉屋と三つの葬儀屋と二つの淫売宿と
二つの学校がある 数へて呪わう俺の喜びありつゝ苦痛

ワン ワンダフルホールドをつまめて

ツー 痛快無類の人殺し

スリー シリフおした肉の色

ヨー ネトグラフィに残そつか

フイブ フックはほんの度のロード

シックス シックスラインもやりません

セブン セブンかを飛して赤い

血だ

エイト エイエイオー

下せし

ナイン 泣りて喜ぶ

二十九俺は

テン 天国行き

だ

リ三行かん！



新英名二十八衆句

陸都
進井

わばやん勘忍してつかあさい

睦姫は社様になりましをりんの子



和筆
都井睦雄

Toi Mutsumi
by Hanawa

● Seishi Yokomizo's "Yatsuhaka Mura" is based upon the incident that occurred in Okayama in the 13th year of Shōwa. Recently, Akira Tsukuba and Nozomu Nishimura wrote about it with great interest so it became a popular incident. "Ushimitsu no Mura" is the movie version of this incident. It's amazing how many people were killed. They were either shot to death or strangled to death. The number killed totalled 29. Even though it was a small village, close to half of the population of this village were killed in one night. I don't think this record could be broken for a while. The reason why the murderer killed so many people was explained as "Mutsumi Toi was a persecution mania", but we will never know the truth because he also killed himself. The reason this incident was not well known was that the military restricted publicity regarding this incident. They said people would have panicked if they had heard of such things like this. Kazuichi Hanawa's sense was sharp when he said "Mutsumi became a God".

● 横溝正史の「八つ墓村」は昭和十三年に岡山で発生したこの事件をモデルにして書かれたものである。近年では筑波昭や西村望が深い関心を持って書いて書いたのでボビュラーな事件になった。『丑三つの村』はその映画化。なんと言っても殺した人数が多い。射殺、斬殺合わせて二十九人。小さな村とは言え、その半数近くの人間が一晩で殺されたのだ。この記録は当分破られそうにない。原因是極度の被害妄想と説明されているが、都井睦雄本人も自殺してしまったので真相は不明だ。この事件が世間にあまり知られなかったのは、軍部による報道規制があったからと言われる。人心をいたずらに刺激するばかりだと判断からだ。「睦雄は神様になりましたけんのう」と呼ばせる花輪和一の意識は強い。

一柳展也

Nobuya Ichiryū
by Maruo

●これはあんまり説明したくないな。見ればだれにも分かる絵だもんね。ただ、言えることは、これまで一柳展也の引き起こした金属バット事件に対して書かれたすべての評論よりも、この一枚の絵が多くを物語っているという点だ。展也の狂気と悲しみがこれほどストレートに伝わってきた経験はかつてない。展也本人べきで、これを見せられたら辛くてしくしく泣きだしちゃうよ。絵のしさをあらためて感じた。事件は昭和五十五年のことなのに、この衝撃はあるて昨日のことのように鮮やかに蘇ってくる。これはあの世のことならず、というコピーにも喰つた。普通なら、この世のことならず、とあっさり縛りをして逃げたいところだ。

● I don't really want to explain this. Anyone can understand this picture at a glance. The only thing I can say about this picture is that this picture tells much more than all those criticisms which were written about "Metal Bat Incident" caused by Nobuya Ichiryū. I have never experienced Nobuya's madness and sadness directly like this before. Even Nobuya himself will burst into tears when he sees this picture remembering the hardship he went through. I feel the greatness of this picture again. Even though this incident happened in 1980, the shock I got from this picture revives all those feelings as if it occurred yesterday. I was impressed by the phrase, "This is not a thing of the other world." An average man would simply say, "this is not the thing of this world," and he would want to flee from the problem.

新英名二十八衆句

一柳
也展

丸尾
未席

これはあのせり事ならず

球を打たずに頭を打つちやつた

天にも地にも

ただ独人

ほろ／＼と

鳴く山鳥の声

間けば父かとぞ思う

母かとぞ思う

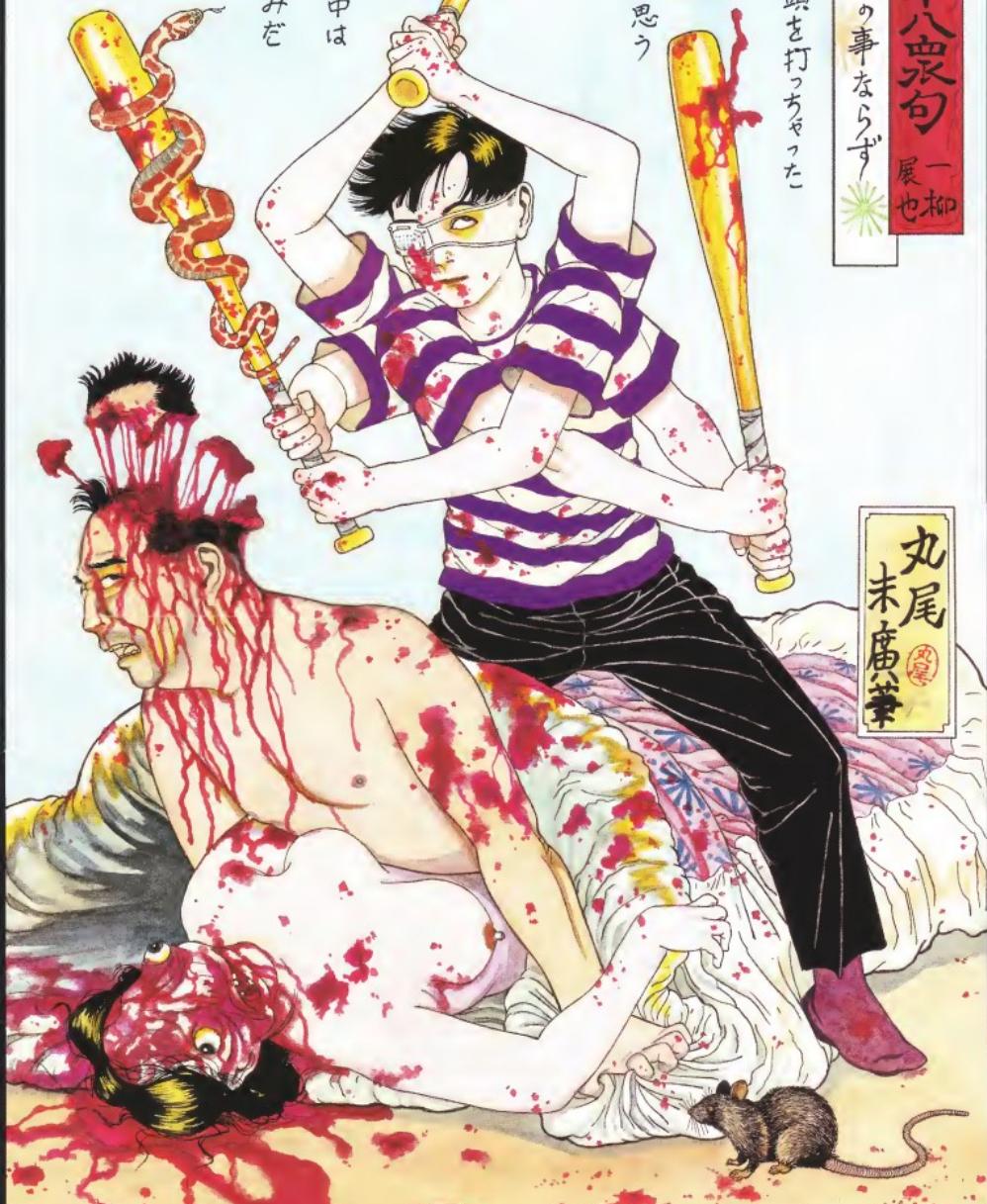
親はあつても
親知らず口の中は
焼けるよう

歯医者も休みだ
眠れない

ズキズキズキ

ズキズキズキ

ズキズキズキ



新英名二十八衆句

総門谷

スルスルと人か手をすり 足をすり

ああ 背中かひだみだする。
人造人間木ムンクルムだ。は・早く医者を呼んぐれ
救急車を呼ぶんだ! ああ! 早く! くれ! ああ! 何と
してくれ! 見殺したしないでくれ! 早く! 手をすり^レくれ!
ど: どうすればいいんだ? こ: こんなて食へあらうがでしまって!

ああ? こう? そり年々血をためるんじやまい! ばかり
ああ: うう? いやだ! 早く! 血十番しつくれ 敬言客ま
よぶんだ! ああ! まと百十九番を! 医者だ 医者
たのも! 早くしててくれよ! 一刻をあらそらんが!
ああ! まようくどうすればいいんだ?
とにかく医者だ! 早く!



和一筆 ホムンクルス

Homunculus
by Hanawa

◎「これも『悪魔のトリル』と同様に私の書いた『総門答』から選んで貰ったが、ホムンクルスそのものは私が捏造した怪物ではない。偉大なる鍊金術師バラケルスが可能性を説き、また実際にクフ・ショタイン伯爵が創造に成功したと言われる人造人間なのだ。瓶の中に暮らし人間の生き血で培養されたとある。頭が異様に大きな小人で、予言能力を持つ。荒唐無稽な話にも思われるが、現在のクローラー再生を考えると、笑い飛ばすこともできない。フランケンシュタインなどよりも遙かに現実味のある存在なのだ。実見記も残されていて、それには「頭の形はトカゲに似ている」とある。不気味な生き物だ。

● Homunculus is chosen from my work, "Sōmondani", like the devils from my "Akuma no Trill". Homunculus itself is not a monster that I created. It's a mechanical man that great alchemist Paracelsus had explained the possibility of this monster and count Kuhustein actually succeeded in creating it. It lived in a bottle and was cultivated with human blood. It's a dwarf that has a huge head and has the power of prophecy. You may think of this as an absurd story but we can't laugh at it when we think about the production of clones these day. It's more realistic than Frankenstein. Homunculus is written down in a record as a dwarf that has a head shaped like a lizard. It's a spooky living thing.

Even when I say, "Well, I don't know," it's not a mystery answer. I don't understand the psychological make-up of Mr. Maruo. But I'm not saying that he is strange. Since he draws this unexplainable world so clearly. The confusion went somewhere. To tell you the truth, at the beginning, this was the different picture. The first picture he draw was really easy to understand. In his first picture, Ranpo was in his library in front of his writing pad and a circus crown was jumping around him and a devil was looking over his shoulder. However, within the last few minutes, he changed to this picture. Maybe Mr. Maruo became one with Ranpo and Ranpo's image might have come out through him. However, Mr. Maruo has really great artisticsensitivity to pick Ranpo himself as a topic, instead of something from his essays.

うーむ。分からんぞ。と言つても謎の答えではない。丸尾氏の精神構造が分からんのだ。と言つても異常だと半ずのではない。こうまで明快に不可解な世界を描かれてしまうと、混乱も混沌もといかに行つてしまら。読者に打ち明けると、最初は別の絵柄だったのだ。書齋で乱歩が原稿用紙を広げてじて、そのままわりにサーカスのピエロが跳ねでしたり、悪魔が背中から覗きこんでいたりの、非常に分かり易いものだった。ところが直前になつて彼はこの絵柄を変更したのである。乱歩と一体化して、乱歩自身の幻想が噴出してきたのかも知れない。だけど、乱歩の小説からではなく、乱歩そのものを題材にするなんて、やっぱり不思議な感性だなあ。

新英名二十八衆句

江戸川
乱歩

なぞが呼ぶなぞどんなんなぞ？

次の問ひに答へよ

屋根裏で散歩したのは

乱歩か？

押絵と旅する男は何処

まで行くか？

火星の運河は何マイルか？

人間椅子のすわり心地は快適か？

餅差宗助の身体的特徴は？

エドカワランボとは誰の偽名か？

レンズ嗜好症とはどのよう

病気か？

暗黒星は銀河系に属

するか？

少年探偵団に少女はいる
か？

二十面相の変装は性別を
こへたか？

陰獸の足は向本か？

平井太郎

丸尾
未廣筆



新英名二十八衆句 物語 雨月

祝言にて
吉備津の金で虫かなき

風雲
如意天子

うめかづ
く苦
くもろしき
地獄ひきあ

朱符

烈

朱符

引

風雲
如意天子

さいはひと神に祈ふとて、巫子
祝部を召し集めて御湯をなして
まつる。そこでも当社に祈りする人は
數の祓物を供え御湯をなしまつり
古き祥凶しき祥を占ふ。

巫子祝詞さはり、湯の沸上る音
およひて古き祥には釜の鳴る音
牛のほゆるかごらしめし古きは
金なる音なし。

これと吉備津の御金祓といふ。

和一筆 磯良と正太郎

Isora & Shōtarō
by Hanawa

◎吉備津の金神事とは、大きな釜に湯を沸かし、その煮立つ音によって吉凶を占うものである。吉ならば釜は牛の吠え声のように大きく響き、凶ならまつたく音がしない。音がないことは有り得ないからこそ凶なのだ。ところがこの二人の場合はそれに当たった。結婚などしなければ良かったのである。案の定、二人には不幸が付き纏う。夫は愛人を作つて岡山から逃げ、妻は病氣で亡くなつた。怪異がはじまつたのはそのときからだ。妻の亡靈が現われて夫を冥界に連れ出そうとする。必死であらがう夫と怨念に燃り固まつた妻の目。引、引、引、の文字がこれほど迫力をもつて使われた例を私は知らない。

● The ceremony called "Kibitsu no Kappashinji" is a method of fortune telling by boiling water in a big pot. The good or bad luck could be told by the noise that is made by the boiling water. If it's telling good luck, the water will make a sound like a cow's cry, and if it's bad luck, it will not make any sound. Since there is no way that boiling water will not make any noise it's considered to be bad luck. However, to this one couple it happened. They shouldn't have got married. As I thought so, bad luck followed these two. The husband ran away from Okayama with his lover. The wife died of an illness and that's when strange things started to happen. The spirit of the dead wife appeared and she was trying to lead her husband to the world of the dead. The husband resisted with all his power, and the wife's eyes were filled with resentment.

アドルフ・ヒトラー

Adolf Hitler
by Maruo

● There is no need to explain Hitler. Most likely, there is no other human being who is as well-known as he. All men must have dreams about becoming Hitler even though his beliefs and actions might have been different. Hitler will continue to live on as a teacher of human being's darkside. I don't know the position that is taken by Suehiro Maruo's feelings toward Hitler. However, I was overwhelmed when Hitler declared, "I'm as beautiful as I have killed." Please don't feel like you understood Suehiro Maruo simply based on this one sentence. He writes phrases by gazing deeply into things. He is only trying to use Hitler to express his own feelings toward this miserable world. The target of his anger is not the Jews but us.

●ヒトラーについては説明も不要だ。彼ほど知名度の高い人間は恐くない。思想や行動は別にして男なら誰でも一度はヒトラーになる自分を夢想したはずだ。ヒトラーは人類の反面教師として今後も生き続ける。丸尾末廣のヒトラーに対して抱いていた感情がどの位置にあるのか私にも分からぬ。けれど殺したぶんだけ私は美しい」と言いたらせる妻には圧倒される。単純にこの文章だけで丸尾末廣を理解した気持にならないでくださいよ。彼はもうどきを見据えてコーヒーを書いているんだから。やるせない日常に対して彼はヒトラーの「口寄せ」を試み、ヒトラーに語らせてはいるだけなのだ。
怒りの目標はユダヤ人ではなく我々にある。

新英名三十八衆句

アドルフヒトラー

殺したぶんだけ私は美しい

私は血が嫌いだ

肉や腸も嫌いだ あらゆる形の

は生きりしないものを憎む

私はあいつらが嫌いだ あいつらは

欲深い金利主義者だ 汚れた台所

をはいざる不快なナメクヂだ

緒君あいつらを智栄あくれの怨竜

かなんぞのようくにこの地上から

一匹残らず絶滅させよう

ブロンドと青い瞳の

千年王国を

つくろう

だが一つ言つて

あくあいつら

の血を孕しては

ならん

私の食べる

キーッカ

あいつらの

血を吸って

大きいくらいのだとしたら私はいい

可を喰べればいい?

丸尾
末廣
筆



新英名二十八衆句

定 阿部

御茶漬けで頭と締めたり
緩めたり

吉蔵サマハ私だ
ケノモノヨ誰ニモ
ワタスモノデスカ。
敷布ニ定吉二入りきりト
書イタシネ。アリフリフ
吉蔵サマノ左太股ニモ
「定吉入」シテ刻ニシ、左腕
ニモ足^レテア刻ニシアゲヨウ。
コウシテアゲレバ好女多感ナ
吉蔵サマモウレシかツテ
死ンデイクワ。オホホツ。
昭和十一年ノ事ヨネ。



和筆 阿部定

Sada Abe
by Hanawa

●あれ、こんなに新しい事件だったか、と戸惑った。なんだか高橋お伝や花井お梅といふ悪女とイメージが重なって明治の女とばかり勘違いしてたのだ。そう言えば彼女を扱った『愛のコリーダ』にはラジオやビールが映っていた。でも事件そのものは前近代的なものだなあ。今では男の性器を切り取ったって世紀の獣奇事件と騒がれるかどうか。悪魔が憑いたとか死体を細かく切り刻んだり、食べたりする時代なんだから。まるで御飯のおかずのように無造作に置かれているのが凄いね。オス」とか「メス」と二人を冷たく扱っている花輪氏の視点にも注目したい。

- Was this incident this new? Her image has doubled with wicked women like Oden Takaishi and Oume Hanai so I thought of Sada as a Meiji woman. Come to think of it. In the movie "In the Realm of Senses", there was radio as well as beer. But the incident itself seems pre-modern. Today, even if someone cut off man's genitals, no one will make a big deal about this and say "it's the most bizarre incident of the century." This is the age when murderers cut up bodies into little pieces and eat them saying the devil made them to do it. We should pay attention to Mr. Hanawa's view point when he coldly handled themes "male" and "female".

From Akiyuki Nosaka's short story "Tarachine Shinjū". It's a sad story about a son and his mother who died of cancer. The son loved his mother so dearly. When he was left behind by himself after his mother passed away, Shun-ichi cut open his mother's stomach and ate the internal organs that had cancer cells hoping he would die of cancer also. I, myself loved Nosaka's extraordinary sadness in "Hotaru No Haka." However, I was struck by Suehiro Maruo's kindness to pick "Tarachine Shinjū" out of all the works of Nosaka. He has unique point of view toward cruelty in the material he chose, like "Sleeping Man", "Little Red Ridinghood" and "Marc Bolon". It could be said that this is his achievement to have this picture in this book or paintings. If he didn't read deeply into Akiyuki Nosaka, he wouldn't have got where he has today. He is amazing for his young age.

●野坂昭如の傑作短編『垂乳娘心中』より。癌でなくなった母親を慕うあまりに、たった一人取り残された息子の俊一が母の腹を切り裂き、癌細胞に包まれた内臓を食べて自らも死を望むという切々とした小説である。個人的には『火垂るの墓』の途方もない悲しみの方を愛しているが、これを野坂作品から選び取った丸尾末廣の優しい感性には激しく胸を衝かれた。眠り男といい、マーク・ボランや赤ずきんといい、彼の選ぶ素材には残酷さに独特の視点がある。この画集にこの一枚が加わったことは、やはり彼の手柄と言つてもいいだろ。野坂昭如をよほど読み込まないと、ここまでには辿り着かないぜ。まったく若いのに怖い男だ。

新英名三十八衆句 俊一

はうわたに母のしみこむ血の晩餐

胃は緑
腸は黒

肺は赤

心臓

肝臓

なめらかに

腎臓

膀胱

あざやかに

奇妙な果実

ウカオリも嬉し

母の臓腑の

なつかしや

母がこあ身をはら

んだよにこあ身に

母をはらあべし

孝行の手本は教

あれど後り世までも詠わるよ

孝行の鑑の

たらちねば中



新英名三十八衆句

月光仮面

げっこうかのん
ぶんけのよの

太鼓の音に合わせて一振
また一振！ 呟る草刈鎌

朝から賑わう盆太鼓
今日は日出たき村祭り

お許し下さい鎮守様
世間でえもおえりみす神前

農地を汚で汚す所業に

出た分家の嫁

御燈明に照

らされて刃

星様

キフモラか

祭禮

祭禮

祭禮

祭禮

祭禮

若旦那様は
ワタシハ
ダメナノ

血を出

味方といえども、このよ

す肉も出す。いかに正義の
には口も出せぬ手も出せぬということよ。

分家嫁

若旦那様

狂

死

月光仮面と分家嫁

Gekkō-Kamen (Moonlight Rider)
& A Branch Family's Bride
by Hanawa

● じぶんの作品に説明を加えると、こちらが損をする。いやあ、驚きましたね、笑いましたね、凄いですねー、でいいのだ。月光仮面における正義の限界などと分類をはじめても仕方がない。これには原作者の川内康範先生だって嘆きだしちゃうだろう。花輪マンガには時々こういう、とてもない笑いがある。「護法童子」だって底辺を支えてるには笑いだ「オジサンショウガナナイエ」ワタシハコ「ウイウノダメナノ」脣間の皺を書き込むじょいで月光仮面の苦笑と苦笑が伝わる。それにしても「分家嫁」とはただならない登場人物だ。

● If I write an explanation to these works, I loose out. All I have to say is "Wow, it surprised me, it made me laugh, and it was wonderful." There is no use to start classifying the limit of Gekkō-Kamen's righteousness. If I did this, even the author Kohan Kawachi himself will burst into laughter. From time to time in Hanawa comics there are these kinds of absurd laughters. Even in "Gohō Dōji" what's supporting the base of the story is laughter. By drawing in the wrinkles on Gekkō-Kamen's forehead, we can see his bitter smile. Moreover, "A Branch Family's Bride" is not an ordinary character.

末廣筆

永田洋子

Hiroko Nagata
by Maruo

46

● It's already been seventeen years since "The Asama Mountain Villa Incident", which glued us to our T.V. sets. During the climax of this incident, February 28, 1972, T.V. stations were broadcasting the development of this incident for nine hours straight. The audience rate was 98.2%. Probably this incident had the most eyewitnesses among all Japanese criminal incidents in history. A chill ran down my spine when fourteen corpses were found in Myōgi-Mountain due to the confession of those who were arrested. Hiroko Nagata, who had lynched people under the name of generalization, became a first-rank wicked woman as a result of this incident. Compared to her cold-heartedness, Sada Abe is nothing. Anyhow, this was a very dreadful incident. I still feel sick. The picture and the essay are very powerful.

●我々をテレビの前に釘付けにした「あさま山荘事件」も、すでに十七年も昔のこと。事件のヤマ場となつた昭和四十七年二月二十八日はテレビが九時間ぶつ通して攻防を中心にして、視聴率はなんと九十八・二パーセント。恐らく日本史上最大の目撃者がいた事件だ。その後逮捕された彼らの自白によつて妙義山中から十四名の死体が発見されたときはゾッと背筋を凍らせるものだ。総括という名曰でリンクを行なつた永田洋子はこれで悪女のトップに立つた。彼女の非情さに較べると阿部定なんて露んでしまう。それでも暗い事件だった。吐き気がまだ続いているよ。絵も文章も相当な迫力だ。

新英名二十八衆句

永田 洋子

ノ一 石一モー モー ユー

こら てめえ！死んどんのか？
あたしの名前をいいそみう
てめえりょうなハンパな奴は

あたしがカツを
入れてやる

あたしは
高校ん時

出自金病
になつたん

だぞ
どんなに

くやしかった
か



あたしは手キラ手テレした奴を見ると
はらわたが意へくりかへるんだ
せの中はどうみたうてあたしの為にはない
あいつうだよ あいつう!!

ちくしょう殺してやるてめえ逃げ道
在ぞ あたしにもないぞ
あたしの名前も云つてみう！

丸尾
未廣
華

安城

新英名二十八衆句

白虎隊
の最後

夏草や
食籠山でさよならう

ああ：鶴ヶ城が
燃えている。

みんな死のう。

ああ、そうじよう
どうしても死ぬのは
いやだ、生きたいんだよ！
ああ死ぬぞ！

うこうし死んでやるぞ！

腹切腹切腹切腹切腹

元



白虎隊

Byakkotai
by Hanawa

● The tragedy of Byakkotai does not lie in the fact that all of those who committed suicide were all under seventeen years old. The tragedy lies in the fact that they have mistaken the fire beneath Wakamatsu Castle as the fall of the Castle. There were close to twenty soldiers there and none of them doubted that they were mistaken. Were they that much exhausted mentally? No, it must have been that they didn't even have one ounce of fighting spirit left due to the battles which were fought in the rain storms on top of a lack of sleep and hunger. I, myself have actually looked down on Tsuruga Castle from Imori mountain, where these boys have committed suicide. It was close enough to see what was going on so there is no way they would have mistaken it. Probably for those boys, death was the easy way out. Even if they had lived longer, what would they have had to wait for them? Probably only humiliation and agony. On those boys' faces even pleasure and tranquility can be seen.

● 白虎隊の悲劇は切腹した全員が十七歳以下の少年だった点にあるのではない。若松城下に燃え盛る炎を落城と勘違いしたところに発している。二十人近い隊員たちがいながら、だれ一人として疑わなかつたのだから、神経をよほど消耗していたのだろうか。いや、豪雨の中での戦いや、睡眠不足と空腹が重なって、もはやひとかけらの戦意すら失つていたに違いない。私も実際に彼らの自刃した飯盛山から諸ヶ城を見下ろしたことがある。決して見違う距離ではなかった。死は少年たちにとって安息だったのかもしれない。生き長らえたとして彼らになにがあったのか。恐らく屈辱と苦悩だけが待ち構えているだけだ。解脱した少年たちの顔には快樂と安らぎさえ浮かんでいる。

● Peter Kürten who was feared as the "Monster of Düsseldorf" by the German people, killed 12 people in five years starting from 1925. After he was arrested he confessed to three murders. He also bragged about more than twenty attempted criminal offenses. The doctor who was asked to judge Peter's psychological state, called him, "King of the Degenerates." The doctor called him this because Peter didn't feel any guilt towards the crimes he had committed. However, by looking at his picture, he doesn't present the brutal impression that his crimes would suggest. He has a gentle look on his face that resembles Anthony Perkins of "Psycho". Also, he was a hard worker and had good manners. So he was well liked by his co-workers. Therefore, he is a "degenerate". He mostly murdered people by strangulation. For this reason, this picture is not so realistic. It could be said that this picture shows how he wanted to kill. This is a ghastly scene. Due to this picture, Kürten is guaranteed to be even more well known.

●一九二五年からの五年間に十二人の男女を殺害し「デュッセルドルフの怪物」と恐れられたピーター・キュルテンは、逮捕された後に三件の殺人を告白し、未遂事件は二十を越えると豪語した。彼の精神鑑定を依頼された医師はあまりの罪の意識のなさに「変質者の王」と呼んだほどだ。しかし、写真を見ると限り、狂暴な印象はない。「サイコ」のアンソニー・バーキンスに似た優しい面立ちである。仕事に勤勉で礼儀も正しく、職場の同僚からも等しく愛されていたのだ。それゆえの「変質者なのだ。殺害方法も大半は絞殺だった。だからこの絵は現実ではない。むしろ殺害しながらも、そこまでやれなかつたキュルテンの願望を绘に仕立てたものと言える。なんとも物凄い画面構成だ。これでキュルテンはもっと有名になること請け合いただ。

新英名三十八衆句

ピーター
キルマン

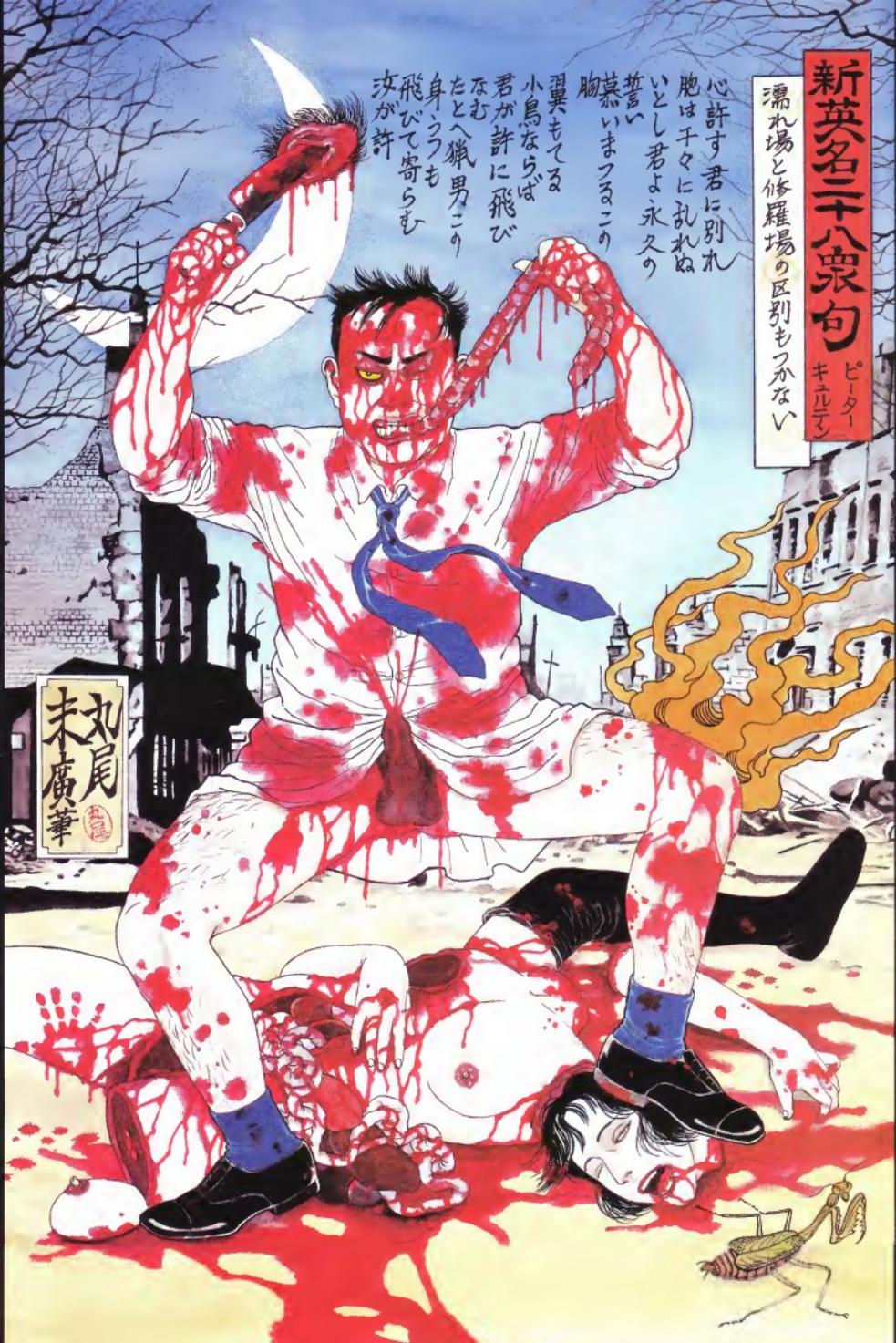
濡れ場と修羅場の区別も分ない

心許す君に別れ
胞は千々に乱れぬ
いとし君よ永久の
誓い

慕いまづるこの

翼もてる
小鳥ならば
君が許に飛び
なむへ狹男ニリ
身うつも
飛びて寄らむ
汝が許

丸尾
未廣筆



新英名二十八衆句

天守
物語

首

わあ
ははは
うへへへへ
あはうあはう
ぐへへへへへ
ぬふうむふふ
ぎへへへへへ
うははははは
ぐははははは
ああくはははははは

エヘラ
エヘラ

ヌキヌキ

ナカレ

ボトボト



和筆 富姫

Princess Tomi
by Hanawa

●和らまでもなく泉鏡花の傑作戯曲「天守物語」に登場する妖怪だ。この場面は姫路城の天守閣にいる姫の富姫のもとに、猪苗代の鬼城にいる鬼姫が土産として生首を携えて訪ねてきたところだ。『サロメ』によ似た不気味さが漂つてゐる。しかし、こちらは妖怪なのだから罪の意識はない。単に「美味しそうなもの」として首を眺めてくる。その上、鏡花は満り落ちる血を汁とすら表記した。グロテスクを描くことが鏡花の目的ではなく、異界と現世との境を描くために生首を持ち出してきただけなのだ。その証拠に戯曲の後半は、爽やかな恋愛物語に終始している。花輪氏もそこまで見通して明るい画面を構成したのだろ。生首を持って踊る富姫に残酷性や狂氣は少しも見られない。

- Needless to say, Princess Tomi was a witch that appeared in Kyōka Izumi's masterpiece "Tenshu Monogatari". This scene shows the time princess Kame from the Kame Castle went to go visit her older sister Princess Tomi who resided in the donjon of Himeji Castle. Princess Kame brought a head to Princess Tomi as a gift. This scene even resembles the spookiness of "Salome". However, since they are witches, they don't have any guilty feelings toward what they are doing. They are simply looking at the head as "something good to eat". On top of that Kyōka wrote the dripping blood as "sauce". His object was not to depict grotesqueness. But his object is to show the boundary of the other world and this world by using the head. To prove this point, the second half of this story is devoted to a love story. Mr. Hanawa has looked deeply into it and that's why he can't see any cruelty or insanity in princess Tomi who denced while carrying the head.

大久保清

Kiyoshi Ōkubo
by Matuo

◎この事件の起きた直後だから昭和四十六年の冬が彼をモデルにしたポルノ映画を見た覚えがある。筋は完全に忘れたけれど、一ヵ所だけ強烈に印象に残った。彼が女の子の気を引くために、せつせとフランス語の勉強をしているシーンだ。リングファンのレコードを繰り返し再生し必死でボンジョールとか練習している。それがなんとも兎氣迫る演技で、なんでこいつはこの努力を他人に向けなかったのかと腹が立った。それを見たために大久保清のイメージは固定してしまった。ベレー帽といいルバシカといい、呆れるほど単純な男だが、どこか憎めない陽気さも持っている。それに娘たちはたぶらかされたのだ。表面だけじゃなく男を見る目を養いなさいよ、と若い娘たちには忠告しておく。

● I remember seeing a pornographic movie which was modeled after Kiyoshi Ōkubo. The movie came out right after this incident had happened. I guess it was the winter of 1971. I completely forget about the story of this movie but one part remained as an intense impression for me. In this scene they showed Kiyoshi studying French really hard in order to get girls' attention. He played the linguaphone record over and over again to practice "bons jours" and other French words. I got upset thinking why he didn't put this effort into something else. After seeing this movie, my image of Kiyoshi Ōkubo was fixed. He is a very simple minded person with his beret and rubashka. However because of his cheerfulness people couldn't hate him. That's what deceived the girls who were killed by him. I would like to give the girls a piece of sound advice. "Don't just look at a man's surface, learn to look into him."

新英名三十八衆句

大久保
清

丸尾
未廣
筆

母親の悪口もほどほどに

お母さん、僕は今自分が生まれた時の事を
想い出しました。首にくい込んでロープを
恩にぬけはあなたの女陰から頭ださだウ出した
時、成じたよくなっています。

何ものにも傷つかないあなたの大奥は
なんてお乳持ちがいいのですよ。

その上、産婆のシワだらけの手が
僕の頭をつかんだので思わず

泣いてしまったのです。
あなためくさい動産のものにおい
たるんだ下腹たにじんだ汗

なんでも知っていますという目

おまぬるいミルク
どうしてこんなイヤな事
ばカリ想い出す。でしゃぶ

あなたが死ぬ時、まくら元で
イヤミのひとつもいってやる
うと思つていたのに僕
ちがせんに死んでしまつ
とは残念でなりません
なようなら



新英名二十八衆句

女殺し
油地獄

血をぬいて
油ですか

あわせのまじき

長女
カトシシカチ
トーン
この因業野郎

極悪人与兵衛

次女
これじゃまるで
男殺し油地獄
みたいだなあ

ヤイ、子兵衛
ヨクモオツカサニヨ殺レテクレタキエ
コノ因業野郎、仇ヲトラセテモラフヨ
ウチラ氣丈ナ三人娘ダヨ
油デヌルシナカブ死ニヤカレヨウ
庭モ心モ暗闇ニ打捲ク油、流ル、血
踏ミノメラカシ踏ミスベリ、無限地獄ニ
墮千ヤカレヨヽダ。
コレカラウチラ氣又ナ三人娘ドフ生キテ
イケバインダヨヽミンナコノ馬鹿
惡インダヨ、ソフタヨソワダヨマッタク
ダヽヨ。ンナモンドスルシウチラ極惡子兵衛ノ
野郎ヲ氣分ヲク殺シテシマツタングダヨ
ア：良ヒ事コスルト氣持ナカイナ。

三女
ろはやくちねよへ
ろはやくちねよへ

スルスル
ギトギト
ヌヌヌヌ
ドロドロ

和筆

河内屋与兵衛

Yohē Kawachiya
by Hanawa

● I am going to write this down to avoid the misunderstanding that might be caused by looking at this picture. There is no scene like this in Monzaemon Chikamatsu's script, "Onna Goroshi Abura Jigoku," the original story ends when Yohē was arrested. Yohē was a very selfish man. For his own convenience, he killed the oil shop's Okichi who was a third person. It can be predicted that he will be given the death sentence after his arrest but I guess Mr. Hanawa couldn't assent to it. Mr. Hanawa had enlarged the story when he found in the original script that Okichi had three children. Yohē was a weak and irresponsible person like Mr. Hanawa said. We can try to test Yohē by finding a modern frame to his mind, and this is no joke. What is going to happen to those children who were left behind. The children are screaming. "He is only a bad criminal."

● 勘違ひされないよう記すと近松の原作にこの場面はない。物語は与兵衛の逮捕でしめくられてくる。まことに勝手な男で、自分の都合だけを優先させて善意の第三者である油屋のお吉を殺してしまったのだ。逮捕されても死罪になるのは予測できるけれど、花輪氏は納得できなかつたのだろう。原作に殺されたお吉には三人の子供があるという部分を見つけて、話を拡大させた。まことにその通り。こうもいしても飽き足らないくらいに軟弱でいゝ加減な男だ。与兵衛の意識の在り方に近代性を見つけて評價する立場もあるが、冗談じやない。残された子供はどうなるんだよ。こんなただの極悪人じゃねえか。と子供は叫んでいます。

●もちろん夢野久作「ドグラ・マグラ」に出てきた九州の脳病院の場面をイメージしているのだろうが、と書いたところでこの絵の解き明かしにはならない。上に並んだ文章すら無意味で恐ろしい。これはほとんどバカボンに登場する「レレレのおじさんの世界だ。解説書き丸尾氏は拒否している。流された血の意味もないのだ。だからこそ血は血として存在を強く主張する。この絵の中で正気を逸していなのは、血だけなのである。考えれば久作の小説だってそうではないか。丸尾氏は正しく久作を解読し、それを忠実に白紙の上に再現した。そう見れば納得できる、わけもないか。

● Even if I say this picture is probably the image of the Neural Institute in Kyūshū which appeared in Kyūsaku Yumeno's mystery "Dogura Magura" it still won't explain anything. Even the sentences that are listed above are meaningless and fearful. This is in the same world as "Rerere Ojisan" who appears in the comic "Tensai Bakabon". Mr. Maruo refused to decode this incident. There was no reason for the blood shed. That's why the blood strongly claims an existence. In this picture, the only thing that was not insane was the blood. When we think about Kyūsaku's essay it was like that. Mr. Maruo righteously understood him and he recreated Kyūsaku's image faithfully. When we look at it that way, we can consent to it. Or can we?

新英名三十八衆句

夢野
久作

ほんに夢の久作んごたる奴

扇風機かな 自動車かな
カナヅンかな かなかな

耳鳴りかな
変な音がする

ねえ、あんた
私気はだしが

ですよ
なんです
そり目は
疑つてま
すね
私狂こそ
ませんよ
あんた 本当ですそばよ
私、まだ生まれて
ませんもの
ブランランン



新英名二十八衆句 遠野物語

柿す見テキイー 死ニテ河童ノ鬼
川には川童多く住めり。
猿ケ石川殊に多し。

岸の砂の上には川童の
足跡と云ふものき
見ること決して
珍しきだす。



雨の日の翌日などは殊に比事あり。

猿の足と同じく親指は離れて人間の手の跡に似たり。遠野の川童の面の色諸きなり。

二代まで続けて川童の子を厚みたる者あり。

生れし子は斬り刻みて一升樽に入れ、土中に埋めたり。

其形極めて醜怪なるものなりき。

コンナキモリクサイ
見か育テラレラスカ!

ホーレホーレ!
早ク死ニヤガレ!

アア：イヤダダイヤダ
秋ノ御座ハ…。

● One of the themes that I'd like to write about is "A Theory of Kappa as an Alien". I have a tendency to make everything into an alien but this view has some ground. Unlike the dragons and Nut, the Kappa was thought of as a real existing animal by the Japanese until recently. I guess this means there were many witnesses. Since they didn't have any concept about aliens, they told the story differently. Moreover, when we study the place distributions of Kappa's appearances, we find that these are located at the same places where the have found mad dolls that looks just like aliens. When we think about this, we could think of Kappa as an alien. Does this mean Mr. Hanawa has the same point of view with me toward Kappa?

● そのうち書いたと思つたテーマに「河童エイリアン説」がある。なんでもエイリアンにしてしまうクセがあるので、これは結構根拠のある説だ。龍やヌエなどと違つて、つい近世まで日本人の間には河童は実在の動物として信じられていたのである。それだけ目撃者が多く存在したのだろう。概念がないから、別の言葉で言ひ伝えられただけかも知れない。それに河童の分布を調べてみたら、奇妙に例の宇宙人をモデルとした送光器土偶の出土地と重なる。それを踏まえて見ると、どことなくエイリアンに思える。花輪氏もあるいは私とおなじ目で見ていくのだろうか。

和筆 河童

Kappa
by Hanawa

● The Asakusa Jūnikai that was drawn on the background doesn't impress the viewer. On September 16 of 12th year of Taishō, an anarchist Sakae Ōsugi, his wife Itō Noe, and their nephew Munekazu were assassinated by military police captain, Masahiko Amakasu and others. That means this crime was committed during the confusion which was caused by the big earthquake that hit the Kantō area. Three bodies were thrown down into a well which was located inside the military police site in Kojimachi. Noe had been married twice before she got married to Ōsugi. During this period in Japanese history, she was considered to be a new type of woman because for that. It could also be said that for that reason there were lots of people who had ill feelings toward her. Even Ōsugi's friend thought of her as "a woman that made Ōsugi useless," and they hated her. These facts are besides the point. The problem lies in this title. Why is it "Masahiko Amakasu" and not "Ōsugi" or "Noe"? I don't think the reason is as simple we would like because he is the one who committed the crime. It might be dangerous but there's something about his coldness that draws people to him. She died when she was 28 years old.

●背景に崩れた浅草十二階が描かれてあるのは象徴的な意図からではない。アーネスト大杉栄と妻の伊藤野枝と甥の宗一が憲兵大尉甘粕正彦たちによって虐殺されたのは大正十二年九月十六日。つまり関東大震災直後の混乱に乗じての犯行であった。三人の死体は麹町憲兵隊内の井戸に投げ捨てられたと言う。野枝はこの当時あつて三度の結婚を繰り返した新しき女性だった。それだけに反感を持つ人間も多かったのだろう。大杉の仲間たちでさえ「大杉を駄目にした女」と憎んでいた。それはともあれ、問題はこのタイトルだ。なぜ大杉や野枝ではなく甘粕正彦なのか。犯人だからといふ単純な理由ではないはずだ。ちょっと危険だが、甘粕の冷徹さには懸念があるにかかる。野枝の享年二十八。

新英名三十ハ衆句

甘粕
正彦

ほつといだてせの中は変わらず

野枝さんあんたいい女だね
太歩のよくな男にはもつたいないな
に、野郎も血祭りにしてやつ
たけどね

おいしいね

殺したく

ないな

でも

殺すん

だもんね

あんたみたい
な女は死ぬ
時どんな
声を出す
のかな

どうだい

ちうとは後悔
してる
かい

あのダダイストの詩人
と一緒にいれば
こんな事にはならぬ
かつたろうにね



新英名二十八衆句

一寸法師と殿上人

今昔、一寸法師ト

云フ小童部有ケリ。

体キワメテ小サクアリケレドモ

心極メテ猛ニテ、昼夜朝暮一生命ヲ
殺スヨ以テ役トセリ。凡リ此ノ小童部カ

心ハバヘ人トモ不思エヌ事共多カリケル。

人タク此レヲ歎ムテ「只ナラム人ノ可為キ事ニモ非ズ。物ノ託テ生ス
ルナメリ」ナドゾ云ケル。父母大イニ悲シカリテ御魂ニ乗セテ

都ニ修業ニ出シタレハ都ニテモ悪事ヲナス。

コノ童コリ實ハ鬼ノ子ナリ。恐ロシキ事也ト

十ム語リ伝エタルトヤ。

オワニ
フネニ
ハシノカイ



和筆 一寸法師と殿上人

Issunbōshi & A Nobility
by Hanawa

●一寸法師は怪しう。

●グリム童話にも「親指トム」の話があったと思うが、おからも賢くて鬼や悪魔を退治する。民話の系統から言えば東道治の「桃太郎」や小さな体で力持ちの「力太郎」、そして竹から生まれた「かぐや姫」と同一の種類という気がする。つまりエイリアンだ。などと書けば呆れられるけれど、近頃「かぐや姫」はエイリアンとして市民権を獲得したようなので、格別飛躍した想像でもない。エイリアンと考えれば、この花輪和一の作品にも納得がいく。ただ物語をパロディ化したのではなく、物語の裏側に潜む一寸法師の不気味さを彼は感じとっているのだ。魔を解説する才能を彼は確かに持っている。

● Issun Bōshi is mysterious. In Grimm's fairy tale I think there was a story called "Oyayubi Tom". Both Issun Bōshi and Tom are smart and also they both eliminate devils. When we look at it from the folktale point of view, I think Issun Bōshi could be considered to be in the same classification with Momotarō, who was small but strong, and Kaguya-Hime, who was born out of bamboo. Therefore they are aliens. If I write this, people might think I'm crazy but nowadays, Kaguya-Hime is recognized as an alien. I guess it's not far from imagination to think of Issun Bōshi as an alien, then I can understand Kazuichi Hanawa's work. He captured the spookiness of Issun Bōshi that lives behind the story. Hanawa has an ability to read into evil.

末廣筆

眠り男

Sleeping Man
by Maruo

●一九二〇年ドイツで封切られ、世界を衝撃の渦に巻き込んだ表現主義の大傑作『カリガリ博士』を観た人間にしか、この絵は理解されないだろう。狂人カリガリに催眠術で操られ、昼の間は見世物小屋の箱の中でこんこんと眠り続り、夜の間に犠牲者を求めて彷徨い歩く殺人者チエザーレ。それがこの絵の主人公なのだ。おきていたら実は眠っていたと画題にあるのは眠り男の苦難に身をよじらす迷儀だ。彼の意識はカリガリの意識だったのだから、夜の景色さえカリガリのものなのだ。いや、ナイフで突き刺した瞬間の悪魔的な恍惚さえ眠り男にはなかったかも知れない。丸尾末廣の筆は正しくその不安と混沌を描出している。シームの入ったストッキングも懐い心遣いだ。

● This picture could only be understood by those who saw the movie. "Dr. Caligari", which opened in Germany in 1920, brought shock to the world. The murderer Cesare slept in a box inside the freak show house and at night, he walked around looking for his victims. Cesare was hypnotized by the madman Caligari. Cesare is the main character in this picture. It said at the opening, "when I thought I was up, I was actually sleeping." This is a recollection of the pain of being a sleeping man. He had Caligari's consciousness. Even the night scene belonged to Caligari, too. I don't think he even had the devilistic fascination at the moment he stabbed someone. Suehiro Maruo's brush has rightly captured the anxiety. To use nylon with seams is spiteful in further consideration.

by Maruo

新英名三十ハ衆句

眠り
男

なんていいかげんな私なんだ

おきて、ふると思つて、いたら、実は眠っていた
この街はデタラメだ。影は壁にはりついて
とれなくなる
不具の星は三角屋根に墜落する
えんとつは折れ曲がそ煙を吐かない
女がゆめく眠い！眠い！眠い！

草はとがってふくらはぎにつきさかる
こゝ道は幼児足で歩け

窓は半分開いている
女の首に静脈がかけている

青ざめる顎の下目は蒼う

くぼむ
手のひらは血で

すべる

あのナイフ

さどこへ
落としたか

黒くぬりつ
引け

あれば目を
あけたままで

眠る男

歩きまわる鉛色の魔睡

丸尾廣筆

新英名二十八衆句

源頼光と酒呑童子

花輪因業画

鬼

今日よりは

酒呑童子と一緒になり

家来死にゆく

大江山の月

源頼光

稀有名な酔心地かな
いと心安らかなり
夢のごときになりぬ
いみじう姫しき枯れすすき
神変鬼毒酒に酔いしれし頼光
心のほどを見せんとして酒呑童子の御前にて
家来と斬り倒す袖枕
これから楽しい
鬼ぐらし
頼光風まかせ
雲まかせ
歌よみし



和筆 源頼光と酒呑童子

Raikō Minamoto &
Shuten-dōji
by Hanawa

● Kazuhiko Komatsu and Hiroshi Aramata pointed out that the devils' life must have been merry (from "Yōkaisōshi"). During the time when people were going through much hardship, the devils drank everyday, had women by their side, and a fortune hidden away. On top of all that, they lived in a place where it was far from the logical world that tied humans down. The reason we refuse to believe in the existence of devils is that we have the envy towards them. Therefore, administrators must exterminate devils. The corruption is a sweet seduction. An artist, Kazuichi Hanawa captured that point. When he said "starting today, I'm going to be with Shuten-dōji. The moon above the mountain where my vassals are dying". What a deep song with sarcasm and serious implications. I'm also like Yorimitsu.

●鬼の生活は楽しかったはずだと小松一彦と荒俣宏が対談の中で脱い指摘をしている(妖怪画工房工作會)。人々が貧しかった時代には鬼は毎日大酒をくらべ、女を側に置き、宝を隠し持つていて、その上、人間を縛る倫理観とも離れた地点にいる。我々が鬼を否定するのは羨望の裏返しに過ぎない。だからこそ施政者は鬼を退治しなければならないのだ。悪徳は甘美な誘惑である。花輪和一といふ絵師はそことのじろもちゃんと絵まえている。
●今日より酒呑童子と一緒に家業死にゆく大江山の月なんと皮肉で含蓄の深い歌であることが。
私もまた一人の精光だ。

末廣筆

マーク・ボラン

Marc Bolon
by Maruo

- I don't know who Marc Bolon is. The era of glam rock was during the ancient days. Even the electric guitar became a thing of the past. "Get It On?" I think I've heard of it before. Cosmetic is my monopony patent. Rock'n'Roll is now only a fad. These days, fantasy is passion. When someone perspires, it proves that he is from the country side.
- What was the group called? Really? T.Rex? Were they called Tyrannosaurus Rex before?
- Now I remember, there was a peppy guy in the group. So that was him. He died 10 years ago? I envy him that he died in a car accident. It would be embarrassing if he had died of AIDS.

By David Bowie

●マーク・ボランなんて知らないよ。グラム・ロックの時代なんて古い大昔のことだものね。エレキ・ギターも前時代の遺物になっちゃったな。ゲット・イット・オン? なんだか聞いたことがあるね。化粧はほくの專売特許さ。ロックンロールもファンションになりさがっちゃったし。今はファンタジーの方がバッシュョンなんだ。まともに流す汗なんて田舎者の証拠だ。なんというグルーブって言ったつけ。へえ、T・レックス。じゃあ元のティラノザウルス・レックスかい。なるほど思い出した。やたらと威勢のいい兄ちゃんがいたな。あついがそうかい。十年前に死んじゅった? 羞ましいな。交通事故なんて……エイズじゃ情無いもの(デビッド・ボウイ談)。

新英名三十八衆句

マーク
ボラン

神なき地平の電氣武者

マル
天國の
マークさん
こんばんわ

マーク
君ネエ僕ハ交通事故死ンダソダ
コシナイイカゲンナ描キ方シナイデ
クレヨナ人ガ見タラ本當ダト
思ウジヤ
ナイカ

マルオ
まあ・そ、フ
あっしゃらす
ジミ・ヘドリクス
ジム・モリソン
ジョン・レノン
早死にしたニュージャンの中から
あなたを選んで描いたのですから

丸尾
未廣筆

死
ネ!!

マーク
「安らかにお眠り
下さい」
マーク

マーク
「光榮なのかな?」



新英名二十八衆句

芳年と
幻本天

幻にうつづとおみして絵とかいを



或る時、芳年の
家へ女の幽靈が來る
事がある
名はお琴さんと云ふた由。
それか病死する閻魔也。
先生の處へは何うとも
お禮に伺ひたいと云ふ
云々を相な。」

「ああ、まあですか

芳年

和
筆

芳年と幻太夫

Yoshitoshi & Maboroshidayu

by Hanawa

● Maboroshidayu was a popular courtesan in Nezu around the 15th year of Meiji. She had short hair during this time so she was pretty modern for her time. She had a different taste. She had arhats and skeletons designed on her Kimono and she was applauded by her customers for the outfit. Yoshitoshi visted her often during the height of her career. Yoshitoshi and Maboroshidayu must have got along really well because Yoshitoshi was good at drawing piteous pictures and Maboroshidayu had very strange tastes. One day in the 18th year of Meiji, Yoshitoshi committed an action that can't be mentioned. This is all that's written in the source so we don't know what actually happened. I believe it was S and M. She used this fact to obtain a great sum of money from him. This was the end of their relationship. Yoshitoshi who lost control of his autonomic nervous system and Maboroshidayu's ghost that was seen by Yoshitoshi are put together in his work.

● 幻太夫は明治十五年頃に根津の遊廓で全盛を誇った遊女。髪も吉は断髪だったから、相当モダンガールだったはずだ。趣味も変わっていて、つちかけに羅漢や野晒しの人骨をデザインさせて客の囁采を受けていた。その絶頂期に芳年は彼女の手と通った。無惨絵を得意とする芳年と怪奇趣味の幻太夫どとは、さぞや氣の合ったことに違いない。が、十八年のある日、芳年は幻太夫に対して『うるさい』と叱られた。資料にはそうとしかないので、それ以上の事実は不明だが、恐らくS&Mだらう。それを不々に彼女は芳年に法外な金を無心した。二人の関係はそれで終まる。自律神経失調症気味の芳年と、彼の見た幽霊を幻太夫の怪しさにからませたのは作者の手腕に他ならない。

英名 千八衆句



英名二十八衆句

春藤
治郎左衛門

一葉集
錦盛堂
三刀



筆を
かへせし法を追ひて

是と劇場

小脚色

と言ひ

尾羽うち枯一落ふも黒く

身ハ足あへの淺まき死さぬ

試さんとそる其新鋸より

ぞんじ切ります下坂の刀

蒲鉾小家ふ夢結ぶ間せ

阿ま毛懸るえ野邊の露どく

右和詩七言律

か戯

爲永
春水記



英名三十八衆句

古手屋
八郎兵衛

山開人

交來述

錦盛堂
三秀刀

一鬼
一齋
年年筆



夢ノ如モハ切シハ猫ウ
無縁寺
幕所の辺
窮鼠カニテ猫を食ヒ其頃人の
夜語セ傳聞て茲ニ筆記シム

合の心中ト今世ふ昌太郎ハ浪花あゆ吉前
豊川北の猫茶屋が三歳馴染一猫妻もく通ふ
猫足あ口舌の床終寝子脊中這方向せる猫モヤ
声狂ふ尾風結蝶ほひ牡丹ハ夜晩のあく草
はまゆども入むまうびら。涎をちぢ
私語ハラハ夜短き牛房尾其きぬの
あ少へね。首丈とある首玉に結ふ縄ト
も金番の小判。小判八郎兵衛接ひぬと見
そがらばく。十二時半の猫乃眼ほど
替ふほら乃も人を悟る。猫の
月額の最勝也。心の鬼也

丹波屋乃
諱
諱君逃亡を追る
諱君逃亡を恨め
諱君逃亡を恨め
諱君逃亡を恨め

合の心中ト今世ふ昌太郎ハ浪花あゆ吉前
豊川北の猫茶屋が三歳馴染一猫妻もく通ふ
猫足あ口舌の床終寝子脊中這方向せる猫モヤ
声狂ふ尾風結蝶ほひ牡丹ハ夜晩のあく草
はまゆども入むまうびら。涎をちぢ
私語ハラハ夜短き牛房尾其きぬの
あ少へね。首丈とある首玉に結ふ縄ト
も金番の小判。小判八郎兵衛接ひぬと見
そがらばく。十二時半の猫乃眼ほど
替ふほら乃も人を悟る。猫の
月額の最勝也。心の鬼也

合の心中ト今世ふ昌太郎ハ浪花あゆ吉前
豊川北の猫茶屋が三歳馴染一猫妻もく通ふ
猫足あ口舌の床終寝子脊中這方向せる猫モヤ
声狂ふ尾風結蝶ほひ牡丹ハ夜晩のあく草
はまゆども入むまうびら。涎をちぢ
私語ハラハ夜短き牛房尾其きぬの
あ少へね。首丈とある首玉に結ふ縄ト
も金番の小判。小判八郎兵衛接ひぬと見
そがらばく。十二時半の猫乃眼ほど
替ふほら乃も人を悟る。猫の
月額の最勝也。心の鬼也

合の心中ト今世ふ昌太郎ハ浪花あゆ吉前
豊川北の猫茶屋が三歳馴染一猫妻もく通ふ
猫足あ口舌の床終寝子脊中這方向せる猫モヤ
声狂ふ尾風結蝶ほひ牡丹ハ夜晩のあく草
はまゆども入むまうびら。涎をちぢ
私語ハラハ夜短き牛房尾其きぬの
あ少へね。首丈とある首玉に結ふ縄ト
も金番の小判。小判八郎兵衛接ひぬと見
そがらばく。十二時半の猫乃眼ほど
替ふほら乃も人を悟る。猫の
月額の最勝也。心の鬼也

合の心中ト今世ふ昌太郎ハ浪花あゆ吉前
豊川北の猫茶屋が三歳馴染一猫妻もく通ふ
猫足あ口舌の床終寝子脊中這方向せる猫モヤ
声狂ふ尾風結蝶ほひ牡丹ハ夜晩のあく草
はまゆども入むまうびら。涎をちぢ
私語ハラハ夜短き牛房尾其きぬの
あ少へね。首丈とある首玉に結ふ縄ト
も金番の小判。小判八郎兵衛接ひぬと見
そがらばく。十二時半の猫乃眼ほど
替ふほら乃も人を悟る。猫の
月額の最勝也。心の鬼也

英名二十八衆句 天日坊 法策

一惠
方齊
錦盛堂

翼乃もは高きを畏きて贈あらひ深まに
喜游を仁義の道の才あり惡意に翼贈あらひ
其身を亡を観四海を奔妻蛇法策ハ師大日坊が
教にゆう觀音院の門に花賣の老婆於三者
殺して墨附短刀ぞうなべ鍛倉山の星月夜セ
望も自己頼朝の落胤天日坊と名めりく
竹川伊賀之助ホシ始め味の惡意に

兵法一偏の力候封万戸の榮を功
半途あへて大江廣元が智個の
鑑に見ゆる由井ヶ瀬に
演らすとかく命ハ潮汐池と
よん括名を太平の

物ぞうに残せり

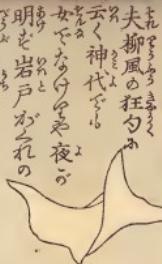
恩川の水下ふ流を汲て

岳亭定圖記



英名二十八衆句 福岡貢

新作第一集とて
るをうけ
史邦



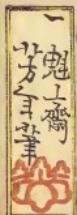
夫柳風の狂匂
云く神代也。
女やなげや夜が
明を岩戸が在るの
屏風の内にあらわす。

契室を朝熊山男ふ貢く於辯ヶ
操も何ちていまきぬあらうが浦
恨みほゆうじ十寸鏡あらゆ修の墨り
晴やうぬ太刀風の官雨の官袖師づ
浦の袖傘り覆ひうゆたる尖き
切光刃ばらうき常闇どくも
獻役ぞ御祓りもくもとの
うちへき神う悔祐福國ら

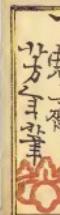
御裳濯河のちうがれえむ
清淨の勲功あらんば

假名垣魯文填詞

一
鬼
錦盛堂
秀方
筆



假名垣魯文填詞



英名二十八衆句

江戸直則

遠東経亨一通

鶴貫

一
豪
第
芳
華
集

錦
廬
堂



吳竹の若葉（よしの）あさみむ小雀の躍（は）忘（わす）ぬ

君（きみ）代（しろ）國（くに）に賊（ぞ）う家（いえ）も鼠（ねずみ）能（の）忠良（ちゆうりょう）の堅（かた）を嘗（な）

嚴家法則（げんけいほうそく）の主座（しゆざ）を懷（いだ）と天（あま）誅（しゆ）の折落（ちりおち）地（じ）獄（ごく）

落（おち）ふ身（み）を碎（つぶ）う見（み）にかち草（くさ）の原田（はらだ）の面（おもて）露（あらわ）

露（あらわ）

脆（へう）きと知（し）らば甲斐（かい）も久企（くき）一時（いちじ）か破（は）我慢（我慢）乃白刃（はくじん）教人（けいじん）を

害（あ）一（いっ）て忽黑（こくくろ）白生死（し死）の境天（けいてん）下（し）確老（せきろう）の御縪（ごゆき）を騒（さわ）一（いっ）力（ぢ）づれ（れ）忠士（ちゆうし）の刃（の）に貫（ぬぐ）

嗚呼（あ）先代（せんだい）小過（こくせ）も。末代（せんだい）小嘆（こたん）も。此連亡（れんむう）て優雲華（ゆううんげ）の今時（いまどき）の逢（あ）よ

洋木（ようぼく）の龜（かめ）千代（せんよ）壽（じゅ）鶴喜代（つるきよだい）君（くん）ハ黃金（こがね）咲（さく）御國（ごくに）入（い）光（ひかり）

羞明（じゆめい）き伊達（いだ）道具（どうぐ）實（じつ）うるさき名家（じめい）のそひえん

巴月菴紫玉記

二

英名二十八衆句 筝森於仙

芦のむねまでも風うね木因



邦見の伯父ハ齋日乃闇麿はこくもく
非業う理ハ盆て出し餓饉あ似らん
非道江葉火一時ふ空千束の柴
悲恨乃余煙猶まつる三人の娘
姉ハ娘に消急ぐ劍の笛妻
妹へ水面ふ散うごよ風に柳葉
谷中一番伊達者於仙也

鍵屋ダ名代と取離さきしも
盛間の無き花火乃一期
因果ハ影追よ追ク燈籠も
美父が戀慕乃
簡と伏すうきゆけ
破きうあれの親が刃に果ハヒ簾の
背もと残せ。無縁法界秋小川人時
横む笠漏露の白玉碎けく一
衰セ傳て。皆袖濡らハ種三か九りぬ

可志好以テラシ



英名二十八衆句

鬼神

於松

五郎



松

英名二十八衆句
於松

ト

八公の

霜の

後

ふ露の緑の林

一千年の

艶色

白雪と

見ゆる娘白浪

夫を

慕ひ

陸奥に

不計

名号劍の異名

尋て

蘿助

不貞を

怒金山

即隠

蓑

夏目何

某少女を

賈て

満る

佛心小

情が仇

父の

敵と

四郎三郎

七討で手に

入る

鬼神

丸の

銘刀

積る

惡妻

ふ其身

さへりし

右郷へ

歸る

錦小

江名目と

わほん

猿

行合羽

跡

弥勳

町の

妓樓

ふ姿を

省を

要生

男子

阿部川堤の曉夜ふ夫を挑む女同士

強富

ぞ懲して

貪民を

賊を

善惡

持小分明

う名君乃仁政

松下跡交來記



英名二十八衆句
於松

船錦盛堂

英名二十八衆句

團七
九郎兵衛

弓武者も嘗て門を構へ左詠

難波高津の夏祭御輿の
俄美と競ひ贊へや長き

長町裏阿寺追迫一

異駕無法過言の
打擲ふ患目と三河屋義平治が

吾うらづみ忍突先の身

其誤謬と解みゆく沼内
渦一刃沉めん因義の爲命ぞ

丁一ソ聲高ふ賜刀殺一呼れて

重ト潜アリ其場と終退く。

行先シネし晦日躬小間よ一寸

兵衛が赤心ハニ乞石割雪踏

夫ビ證識ふ捕者の討手とのぞんせ

落合せらばバト先備中玉島の至り

恩人出世の功と遂自其子市松ノ

趙とまよせ和泉國一むき一そく

一葉舎甘阿戯記



錦盛堂
三虎

芳華堂
三虎

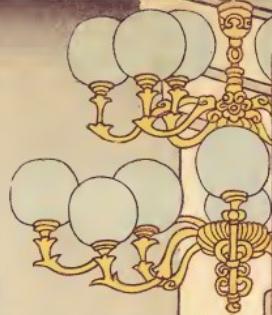
芳華堂
三虎

英名二十八衆句

千本
傳七

圖書之名をかねてむすめをす

百



忠義と痴情に誇迫らる。袖も時雨の楓葉を繪と扇乃
謎々とす。財の赤心を秋ぬ
怒り。典藏が自明使に
形斑く。傳七ふ報怨もく。
其言主家の大事ふ建へる。
止妻と不得死ぞ快く。
使節の詔東國分寺お忍入。
通辞香齋典藏を殺せり。

合典藏が爲成ら
さる妻はく友て善人を
害もくのこそ實説ひれ。
識者に云ふ事一

一葉舎主人記



或ひ曰十木傳七が奸計合

惠齋筆

錦盛堂

英名二十八衆句

勝閭
酒五兵部

河竹

卷之三

梅子青青子已酸
女高音林風

其水記

並木五瓶江戸狂歌の繋り一薩摩源五兵衛ハ
浪花あづり一菊野殺一めりやうを寫一

経色の色面取仕掛文庫仕立屋が
中八兒の手拍の奈良坂や大和町の
浪宅一身(うりゆき)とあひび
二世(じせ)とばうらうと三弦(さんげん)はわらうと
誓(ちかう)ひ五大力(ごだいぢから)の追草(おさく)めのりまをもとと
思(おも)ひぬ死海老(しがい)尾(び)

義理のうそもあせりに
され
七夕の三の絲をふ調子すり

言訳の書置
名残雄鹿
いのち毛立ち
涙立つ
袖ぬく



英名二十八衆句

遠城
治左門

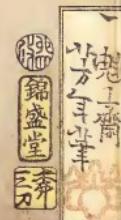
瀬川如皋記



英名二十八衆句 遠城 喜八郎

ぬうかくと義をなすは 大村

瀬川如皋記



足治左爾うてき 刀引抜愈歎突戟弓削桂林等ふ
方人の多勢のために身もろづれ其肩の手紙ハ
廿三ヶ處非道乃刃に散あくも正徳五年霜月五日

崇禪寺馬場の朝霜とて見ゆうるや
現の緒も固より皇天かどとて下旨助太刀
成仕一ツもりけんハ愛しき疵が基とかり
わくひハ顛狂寄病をちうへひむぢうく
活ふりはく生田傳八の惡行かく有な
七加服せんにも遠城のあだきにて當行
の甲のひり修己もなきあゆさすま
たのが今錯轉動く從右腰切一末世の
惡名暴逆不道の爲にむく後代非義絃
ひきあきらめ



英名二十八衆句

邑井

長春

夕多リ黒かく坐中

李

錦盛堂

三才

一穂斎画

花

欲ハ松町の井戸も深くならま
掘抜の水底も見ず清波はるか
分らざりし因果車沾早々廻て
終に鉤瓶の罠目にいらし惡妻み
不ちて人功著あす鞍医邑井
長菴ハ人を助る仁術もとよまる
謀計に非道さゆせきそが有致
我姉舜が年頃の貧乏をまじ
煎ト詰一藥乃のひふ吉原(賣)ニ
娘の身代金を敵と世の中の衰れ
咄々浪に詰身につなまし道十郎う
忘れ一傘と半纏ふ濡衣を重兵衛セ
教も心にある鐘の刃刺と寅剣(云)は後承
立せ切害をし其夜雨も古川の邊櫻もみぢ咲
赤羽根(えんじのね)誰白浪已立(えりたつ)我家に近き平川前を
運ぶ忠蔵の證話とあつて精思を忽露頭(ほづめ)
近守(いんし)天罰(あがめ)の報(むく)

河竹其水記



英名二十八衆句

白井
權八

一家畧傳史
山々亭有人記

錦盛堂
三才

蛇食くゆひ鳴ろい縛子佐夢と雲波



英名二十八衆句

鳥井
又助

名を多く持つ運のほる空缺が活む

路に名ふわふ難川に東込む飛馬も

男一く梅の加賀紋夫さくそかくやく

金の狹箱對よ長柄乃伊達道具

侍士も我先かと渡りあ駕籠早川と

向の岸へ押溝の爰に奸臣望月の

密意ちうぶつー鳥井又助水を

浴りて大將の馬跡都足うだ

拂ひ馬の拂ひもふりんどう打て

月(さん)おとねらしきの老黨士卒ハ

駆きこむらをか曲者とづ間小あく

水面忽ち弓矢もくぬ紅葉を流す

血一月の紅の首ひくらぐく

水底を何處ともなく迷失へ

只頭吏の間体妻にえん

應需

爲永春水記



一葉集
茶の樂園
錦盛堂
三万



英名二十八衆句

稻田九歲
新助

按緒セテテモス金ハ厨ラム音子

一盛春ふ誇——小間乃花月

一衰秋セ悲む大井の月

長夜の夢セ破鐵棒音

紅通に裁つ轉の手料理

庖丁賄刀七八西瓜の割方

子分ヲ遺恨の追善組板

親宿難モ一別荘ア出せり

可史山人

應靈

うう紅記

寶

錦廬堂

三北集



英名二十八衆句

漬島
正兵衛

名内や門へさへもゆづら抱き

遠州濱松の産む。免の病につく
官に出て訴え聽は烈たひし。理と拳

非と罰もとに明白。庶民相擁て

徳を唱へ。是れかく正兵衛自己軀を

重んじ。有司をかうんを一年大に

旱魃。畑の一種。生せば田に一程も

實の少く民苦殺ふ事序むぞり。

正兵衛富家にて救ひえどす。

余よと難波大小相かき泣故に
あらじて固辞を濱嶌吾命ふ叛を

怒り。同志をよろひ官吏走りて山にう毛。

益黨をむすび。富家の土庫に放火。

財をもぐる。貧民りつらへ。後遂に賊とな

なう。四海を横行した人呼で日本歌右門。云

萬國郷忠信等の義賊。此れよりゆづり

葛飾隱士

井双笑曾記



一
錦盛堂
井
井双笑曾記



英名二十八衆句 由留木 素吉 文武

湯をやせむのまく秋も許六

一傳方ヨリ筆
錦盛堂



丹波の領主由留木素吉文武
二道に疎うる私と天性
園碁を好ふよろしく
一族うち篠山檢挾首
人あらじ妙みと聞招く
園ト盤石の連々なる黑白り大領智者と慢く催頂そ
約う篠山ニヤあらじと縛て断點を跨ぐ。劫ゆ征と擇石結
盲人の關観絶し妙手ぞ刺不眼法師。竜石の終少輸トの
勝負の論。時のお辟の篠山が恐魂。姿を顯毛宝庫の堀越今下度の
手合とお鬼と座頭の壁訴訟ハ是鬼山の怪物はう。伊達与惣太
誠忠の練を容一。大領。念も解く大原社宮の末社に崇一法師か
冥鬼。彼神前の大石少今ハ蚕食。應雷
護神と國の口碑に傳わとん

瀬川如皋記



其の房醉題

あらへふ風船もつくぬるう
ほらむ船室をそつとあくよびと
あらへまつはり已自作の唱歌ふ贈慰歌。
間夫アリカマツハ深川。水と魚ある
仲町。あらへ女夫と約束をうなぎ
石場へうこんく不知ろゆくす信助。
ちじ心ひせば塞べて虚言せつれ出を
八幡鐘アリ後朝鳥アリ人來る
玉章の封書たゞぐ可愛き乃。
アラスふくをう百年日本街
劇場観アリ運とほよらば
波うちうきつあらじ夜風アリ
散るほやう尾花もあに
あらへくほよらば

英名二十八衆句

五代吉

三月と文ふ玄のもの名沙れ去来



英名二十八衆句

御所

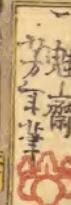
五郎

先立ちの端とむまを車舟写

河竹其水記

錦盛堂

春



富士山
准ア敵
山風か廓の
花の散やくを
雪と都の五條坂
軒と並ぶ遊女屋の
暖簾ふ曾我の紋尽し
蝶と千鳥の翼萬枚持
かくらぬ妹詩行猪武者
土左門ハ仁田の手柄
俠客御所の五郎藏
一番刀子は燈籠
春の未だ妻のうひみ闇
明せ一科の腰切ふと毛うの意合あ此世
別れ是尺八のゆと消行すと夫婦の縁を浅間ヶ嶽石り
高島の某立々記念の傳草紙唯説柄の種とぞあらず



英名二十八衆句

卷之三

卷之三

惠
方
策
馬



約束終に一期の身と謀る色欲痴情め
濁江か迷ひ潤一佐野某開夫嘆之恋か
戀中をさうんの爲の黄金花も仇にわせ
身の耻辱胸のわざら八橋が涙の歎み消
如手にぬきこそが民治良左近と
割子約を曉籍も據父叔父と説る證書の文字も
消え跡も紀仇夢も重恨の都筑武助が謀辻
一刀伊勢村正其身に蒙る殺人刀庭の志の如
下座敷小密や話い恨の兩人今度こそ鉛弾
七ひひく弱の電光出會首の血壓水も
溜め篭瓶百人切の世話も名監官の裁断ハ
直木善恵邪正セ分示是色と謀る一個の美

A detailed illustration of a man in traditional Japanese attire, including a white robe and a red sash. He is holding a long, thin staff or cane in his left hand and has a sword (tachi) strapped to his back. He appears to be in a walking pose, looking towards the right side of the frame.

A detailed illustration of a person's hands working on a loom. The hands are shown from a top-down perspective, with fingers deftly maneuvering threads. The loom itself is made of dark wood and features a complex system of white and blue threads. The background is a soft, textured grey, and the overall style is reminiscent of traditional Japanese woodblock prints.

A close-up illustration of a woman's face, showing her eyes, nose, and mouth. She has dark hair and is wearing a red garment. The style is traditional Japanese.

A close-up of a person's face, showing a mustache and a blue and white patterned garment.

This image shows a horizontal section of a traditional Japanese ink painting (suiboku-ga). The scene depicts a rocky shoreline on the left, with a small red object, possibly a piece of debris or a flower, resting on the rocks. Beyond the shore is a body of water with gentle ripples. In the background, there are faint, misty outlines of mountains under a pale, overcast sky. The style uses fine ink outlines and light washes of color to create a sense of atmosphere and depth.

This image is a horizontal detail from a larger painting, likely a scroll. It depicts a person's profile, showing their ear, hair, and shoulder. The person appears to be wearing a red garment. The style is characteristic of traditional Chinese or Japanese ink wash painting, with fine lines and soft washes of color.

1000-10000

A close-up detail of a person's bare foot resting on a light-colored surface, surrounded by fallen red maple leaves.

英名二十八衆句

因果小僧
六之助

山々亭有人暗記

義賊雲霧の臂骨をつまむ。五指を折ざる豪傑う。其徒

廢業爲も及び簷一机と身の鎌をつねらも多活

道引鍼治絶て久しに同類か不計ねぐ

近江屋の淫婦好夫。伴運に登る持病の

暴療治先廻りて三園の

牛屋の厂本を

小棺亡頬が下

こそ鼻づき

精ひら

捕ふ因果同士霜ふ

消ゆく月代兵の研出を水の刃水は出花も

血の出汐呼ど叶と向ふ人を塙の竹屋小香あく

空を三途を向越私情一世乃大難苦厄惡叟ハ巡る

天師道所ぞれ品川あ同ト忍かふ一榮ハ

非道セらば天皇の雲霧を以て爲シナガハ



一
萬葉
錦盛堂
三刀
年
書

山々亭有人暗記

夷名三十八衆句

國澤
周治

絵地の老妻よ／＼の御宿於豊
姫

進んぐ兎暴な挫き退く
撤弱セ助の勇名常野う
夷く博奕徒の魁首う
此日数多の假子せ會し。
酒塞出あつを詰中へ
持參じまく
小孫傳吉ある者か。

料理ノ一生乃
樂と鳴神の音
右衛門と子今乃
鐵平タツノ首級是先達
國沢治と隙アシ者みぞ有乃れバ
風呂舗疾ニ實揻一々身をもとひ
賞讃附し猶も教益セラむ也ハ實ニ
愉快談話にて周治傳記め

關日ちゑー

一茶舎

甘竹達



一茶舎
錦盛堂
錦盛堂
刀

英名二十八衆句

高倉屋
助七

山亭

有人



ちよはさなきそ江戸の江戸に移北一
額小白妙の富士ぞりそく揚巻あわせまき聞夫きみこそ。鎌波の紫
鉢巻の名に由縁ゆゑんひる花川戸かわ戸と助六と假用せうようせんむけ
浦前うらまへの有徳人ゆうとくじん高倉屋たかくらや助七とくわい結むすびなり
原來三浦みうらの揚巻あわせまき生おきる室むろをわあしらし
死しし大穴おほあなを同どうくもかうし曲輪まきぐるめの寛活くわんがくり)。
六法組ろくぽくくみの美圖野みとの何某なんめい自己じこの鼻毛はげの延のびハ
無休むきゅうタ髪たつぱに髪界かつけいう。あんせん七命しちめいも揚あがれ。

鷲わし翁おきなの食くを得とひだり。ひもうぶるんの
一ひとセせ聞きぬぬ彼かれ助すけ七しちヶが故のうそと。祖子そしの惡提おと
打語譯うちごひ侍しふあらや東雲とうぐもの小雨こあめとくわう
蛇へびの目め今いま。印いん筆ひ枉まよの下駄げた持もて酒さけの頭かしら痛いた
氣きにあざきあざきぞ取とて鋒拳とがこぶしは。歸かへふと夫めと惡おりら
鬪たたか仕つかくもの情迷じゆみ戦たたか戦たたか

劍つるぎ名めい誉よの伊勢いせ

村正腰むらまさひざの助すけ七しち
何なに四人よしん斬ねり尽つく日本にほん
堤つつみの仲葉なかばのあ

霜しやく鳥とり一ひとと
ののらら根ね

江戸えどさうふくら
あるととさすせぬ



英名二十八衆句

西門屋
啓十郎

一惠齋
文庫

錦盛堂
三才刀

掲り秋うちもる熱柿の文考

柳史の魁青陽の春は新顔金瓶梅花一時か開く芳香
千里彼足勢大和ある陸水の尼ヶ五條の菴室り。

西啓阿蓮ヶ非義毒惡黃金か眼闇あ落着車か

向ふ囁噺が。斧振ひうとうらう落毛尼ヶ頭と
思てハ傍ふ在合樂鑼か。阿蓮ヶ火箸か巴。

貫一ハ小僧白水あらばして小手桶

好いがちう浪の泡と消す三個の

目論因果ハ廻ア奈瀬川親子

伯母姫主從アともり岸みづね

縁父子黑白の名あくわん善惡那

正賢不肖動靜云爲の情態七萬を

曲亭一家の硯鏡鳴呼談何ぞ容易さん

抑彼書乃讀法か張竹波謂う言ひに

金瓶梅ハ入セー。是談もろいのうじ代

人々自己是を誤。夫人小賊を説ひの原戒を不ぞ。然うぞ

听く者これふ因く。遂に賊を做を三段。是を説者の過ち也。

聽者自己賊を做をのみ

愚山人 假名垣曾文題



英名三十八衆句

姫村
於百

らせう進ふて必ニ尋りゆつてぬ
必發

岩

吉海灘の乘切ひ年浪寄る大晦日。

春にとも趙宝歌利益へ

深き歎の海被天怪

久日れ前七刀考

怨うる浪の平劍。

因果とむくや細す

繩誰もう波と浪花江。

贈もう生行二世の女夫。

後がゆ小舟重荷一疊の小夜衣は是金毛の運提根記と津呂もろが啼。

東の空に飛行の通力攝津と出く少羽武藏此三國が傳來の素性。

き白面九尾池の五葉に化粧う絶縁消聲鏡み

頬美と錦すを瀧田の城を傾ひと贈ぞ敵をもる天婦の

毒狼の人を訊く是朝一万害猶淺と白氏の

妙文至甚るうね。

嗚呼怖くもあを以ぐ

前野柳養王

假名垣魯文記

鬼子齋
妙方年筆
錦盛堂



英名二十八衆句

鞠ヶ湖
秋夜

燐舟を我身すくら候う耶嵐夜

一惠方巻画
錦盛堂
三才



山闘人交來記

車に向對端
郷々斧の柄
一基太平記
其身のあど白石の答夜ぞよろ
盤面ふ謀殺勝負ふ延べう定石る
常幌と指挾ゆ大挂馬中させへぐ
剣久も一味の妻心止兆の破差握入る
捕手の先手後手も切らばしらるる
離く黒の四天と白毫三千と千指股
袖もあひ四隅と曲む四目殺
天誅道ももれき
終に取基若と成りへ
實善惡の兩車錄さあきた
御代の榮えたりり

英名二十八衆句

直助 擇兵衛

江戸の晴あ春六月ま
富貴参

錦盛堂
秀力

皆樂
筆

義黨一味うちうみにとむきも。忍り
飾る百味簞笥不義の百計時ふ遠く。
速おほむ千金方應報あく期つゝて。
天罰疾く名なる吏四枚肩挂簞笥
及ち伏屠蘿巻の三角死をかのじ
功一なく暴療治の庖丁殺ふ其身乃
命ときよむ。正字正名ト小山田が果。
直の字直うしに權兵衛心捲器
屢問藥をかうたらむ。明智は醫案
其圖かひうて能毒初め分辯う
訴の場可驚神法毒七以て制らぬ
毒おそぞ一工夫不許配剤の妙。
をべき善惡五ふれ。庸医も憚て
正說劇場
東洋文庫蔵

可志好以記



英名「十八衆句」について

宗谷真爾

●各大学図書館、五八二四本などタイトル
●著者年(八〇八年刊)
“Eime Niijūhasshūku”
●cach 1866, 338, 24.5cm

Shinji Sōya



●国芳画「十八衆句」著者年(八〇八年刊)、當時 創業を表す「十八年の競作」といふこのシリーズ一冊は、田録を加え総数二十九枚から成り、錦盛堂の版行。俗にいふところの血の絵といふの版画を、血の絵、無惨絵などいふうが、浮世絵史上ほとんど意義を血の絵で満たしたシリース他に類例をみない。單独版行一枚物では当時比較的多かったこの種の絵画の代表的な傑作である。安政二年の江戸大震難で吉

原の惨状を描いて盛名のあった芳幾と、新進氣鋭の絵師として頭角をあらわしはじめた芳年とは、たがいにライバル意識も旺盛で火花を散らしている。芳幾はその後美人画に手を傾けるようになり、芳年はその生涯を血と幻影の画家として執念を燃やしながら死後には狂死する。二十八衆句は宿命経の二十八宿の語即合せで、この二十八枚には人間の醜陋さと汚穢とが象徴的に描きつづかれている。

● This is a collection of *ukiyo-e* completed by Ikkeisai Yoshiiku, one of Kuniyoshi's pupils, and Yoshitoshi, who was then called Ikkeisai, in friendly competition with each other. The collection consists of 29 sheets including the catalogue and it was published by the Kinselido Publishing Company. These bloody woodcut prints are commonly called *chimadoro-e* (blood-stained print) or *muzan-e* (arouses print), and this series consisting mostly of bloody paintings is unparalleled in the history of *ukiyo-e*. Each sheet in this collection is printed separately. This is one of the greatest of the collections of woodcut prints which were comparatively common in those days. Yoshiiku was then famous for his paintings in which he dealt with disastrous scenes at Yoshiwara caused by the great earthquake which occurred in Edo in the second year of Ansei. Yoshitoshi was also distinguishing himself as a young and rising artist. These two artists decided that they were natural rivals and competed with each other for fame. Later, Yoshiiku became interested in *bijin-e* (paintings of beautiful women), but Yoshitoshi continued relentlessly as an artist of blood and illusion, and in the end died mad. This "Eime Niijūhasshūku" is a kind of game of rhyming the "Nijūhasshūku" in "Shukuyōkyū", and these 28 sheets symbolically represent the ugliness and *karma* of human beings.

【77】古手屋八郎兵衛
Furuya Hachirobei

芳年筆 by Yoshitoshi

【76】春藤治郎左門
Shundo Jirozemon

芳幾筆 by Yoshitsugu

● 尾羽のからした春藤治郎左門が斬り下刀で滅し断つた。自分が死んでしまったくやしさ。葬儀はうちまつたがいい死んでしまつたくやしさ。
「死んでしまつたがいい死んでしまつたくやしさ」

● 藤谷の心中は唱う一節は、浪花あらや江口前
の、路三井の細茶屋より下の書を出しだ。高田八郎兵
衛も、眞陰寺の墓碑などわの後悔を語つてゐる。
女がいゝ顔が左脇を上高く産くあがら、その女達は空父

● Shundo Jirozemon tries his new sword on a chance wayfater but after all he must die himself. He is mounting on the statue of Juō Bosatsu, and waiting to die. "How cruel and merciless...is my life as evanescent as the dew?"

● Tomita Hachirobei depicts the cruel tragedy in the grave yard of a temple where persons without relatives are buried. The opening paragraph is as follows: "The double suicide at Unagedani, about which even now we talk, took place at Nakōjō-ya of Tatsugawa-sūji, not in



すのうに男のからだが描かれ、しかも墓石を床にみた
いたいの図せ、血と死とロスの一致を象徴してある
といへやである。女の額が性を表徵し、血が死を、空感
は交織を、劍はリングムなのであらう。

●大岡政のなかで登場する徳川天一坊がモチーフである。
徳川吉宗の落胤と自称し、将軍に謁見しようとしたが、
大蔵中相に見破られ梶原にされたことになつてゐる。花
壳の老婆於三を殺して、墨付短刀を奪ひおもて描いた
もの。實際は、修驗者源氏坊改行が徳川の一族と称し、
處理された実話に基づいてゐる。

【78】天日坊法策

Ten-ichibō Hōsaku

芳幾筆 by Yoshikiku

【79】福岡貢

芳幾筆 by Yoshitsugu

【80】仁木直則

芳幾筆 by Yoshitsugu

【81】笠森於仙

芳幾筆 by Yoshitsugu

●男じみつけだが紹が、福岡貢に斬られ、皮膚のよじれ
た生首が転がり、周囲に紙吹雪が舞つてゐる。首を前に
突き出した頭の得意げな太刀さばきともサディスティック
な残酷があるが、紙吹雪や蝶が空間に散つてゐる構
は、劣る狂気に現われる幻覚をあらわしてゐる。花
思ふ。劣る狂気は劣年であり、紙吹雪は被害想起の産物
ではないかろうか。

●伊達騒動に有名な原田甲斐をモデルとした「木直則
翁」や、こちではやはり道臣として扱われ、忠士の
刃を倒れたいとはなりつけぬ。龍の櫻の前で、鎌かたび
ふを捨て、血刀をにぎった「木直則が立つてゐる」。

●伊達騒動に有名な原田甲斐をモデルとした「木直則
翁」や、こちではやはり道臣として扱われ、忠士の
刃を倒れたいとはなりつけぬ。龍の櫻の前で、鎌かたび
ふを捨て、血刀をにぎった「木直則が立つてゐる」。

●This painting is based on Niki Naonori, the model of
support she is slain by Fukuhara Mitsugu. The severed
head rolls over and small pieces of paper are fluttering
about in the air. There is some sadistic incitement in
his triumphant handling of the sword with his neck a
little promoted. The design of flying pieces of paper and
butterflies seems to represent Yoshitsugu's illusion which
is accompanied by his insanity. Of course, Mitsugu is
Yoshitsugu and the pieces of paper must be the production
of his delusion of persecution.

●As Okon is emanated of a man and contributes to his
support she is slain by Fukuhara Mitsugu. The severed
head rolls over and small pieces of paper are fluttering
about in the air. There is some sadistic incitement in
his triumphant handling of the sword with his neck a
little promoted. The design of flying pieces of paper and
butterflies seems to represent Yoshitsugu's illusion which
is accompanied by his insanity. Of course, Mitsugu is
Yoshitsugu and the pieces of paper must be the production
of his delusion of persecution.

Naniwa, but in Edo." The girl bends herself back with
her leg high to her left assail, and the fellow is pinned
in the way that his body crosses the girl's body. Here
the tombstone is likened to the floor and the design seems
to symbolize the concordance of blood, death and sex.
It seems that the girl's face symbolizes sex, the blood
death, the posture sexual intercourse, and the sword *In gumi*.

●Naniwa, but in Edo." The girl bends herself back with
her leg high to her left assail, and the fellow is pinned
in the way that his body crosses the girl's body. Here
the tombstone is likened to the floor and the design seems
to symbolize the concordance of blood, death and sex.
It seems that the girl's face symbolizes sex, the blood
death, the posture sexual intercourse, and the sword *In gumi*.

ナムケの合」を描いた作品として注目すべき作品と思ふ。

芳幾は細部の技にすぐれたかもしれないが、本シリーズや

これに見合う作品をあければ「けくしゃ美代吉」たゞ一

作あるのみである。

attribution to the three murder paintings: "Kosomori Osen," "Furuoya Hatchiro," and "Inada Kyozo-Sinsuke," because in them Yoshitsugu has expressed a concordance of Eros and Thanatos. Yohshitsugu was a master of miniaiture and only "Geisha girl Miyoko" can be compared to this painting in this series.

【82】鬼神於松 Kijin Onmatsu

芳幾筆 by Yoshitsugu

●父の敵四郎三郎を討つ手に入れた鬼丸の名刀を手

じえた鬼の首である。松岡弥次来が「*まつわらの子*」と

記してゐるが、芳幾の特異な明装姿女船のひといでやう。

心も立青年が新撰東鏡流のシニアードやむなり於縄を描

してゐるが、その題はすゞり自殺をほんじがくわす。

刃を振りかね、血の飛れる寸前を描き成功してい。

る。

●技になりたい方歓

情熱になりたい方年少の翻案方が評した

ところ

●忠義と愛情にせめられ、徒筋の闘

り、死守の意

●通説吉井典蔵を斬るの図

のデス・マスクは特有なもので、のち『魁題百撰相』にその芸術的完成をみせることになる。

committed suicide by *hara-kiri*, or disembowelment. This death mask is characteristic of Yoshitoshi, and its artistic perfection is found in his later works "Kaidai Hakku-

88 長庵 色井

芳幾筆 by Yoshiiku

その金をうばつて殺し、濡衣きせて重兵衛を殺す。（ヨメイ）時代の上から刀が頭を割っているが、その被害者の姿態が印象的である。

卷之三

【89】白井権八
Shirai Gonpachi

卷之二

鳥井文輔
Torii Matasuke

●足を折られた馬もろとも、もんどうに大股の首を斬ると、川面は紅葉を散らす。紅の首を口にくわえた鳥井又助といが、いったとこ。青い水の斜線のなまらぬ、助の水底を遊泳する姿が、みごとな構図であつて、芳賀作の逸品のひとつである。

● The general's head is severed when he falls into the river together with his horse. The surface of the river looks as if it were strewed with autumn-tinted maple leaves. It is said that Taira Matsusuke has disappeared with a bloody head in his mouth. The design of this painting is quite splendid. Matsusuke is swimming among the staining blue lines under the water. He has a freshly-severed head in his mouth. This is certainly one of his masterpieces.

slanting blue lines under the water. He has a freshly-severed head in his mouth. This is certainly one of his masterpieces.

【91】稻田九藏新助
Inada Kyuzō-Shinsuke

万年筆 by Yoshitoshi

て表現されている。綱と巨醫と、物語の房と、被虐のはての死のエクスター、女らの表情など、本シリーズ中白眉の如

idiotic lace with masochistic extacy—these are the elements that make up the finest painting in this series.

【92】浜島正兵衛
Hamajima Syōbei

芳機筆 by Yoshiiku

warehouses of rich people and robbed them of their property, and gave what he had robbed to the poor. Later he became a head of pirates and plunzeeted far and wide. It is like Yoshitoku making this painting quite moderately.

〔93〕由留木素玄

芳翠筆 by Yoshitoshi

Yurugi Moroharu

●由留木の國の領主由留木素玄は又武一通と號んでいたが、
『山陰豪傑』や『義理の鬼』など有名なものが、その名前を
『山陰豪傑』や『義理の鬼』など有名なものが、あまた贈答した。
『山陰豪傑』や『義理の鬼』など有名なものが、その名前を
『山陰豪傑』や『義理の鬼』など有名なものが、あまた贈答した。

〔94〕げゝゝ美代吉

芳翠筆 by Yoshitoshi

Geisha-girl Miyokichi

●若者美代吉の屋形船をあげる儀式では、御園も押された。
さすがに若者のせば、刀で貫かれた女の最期を、見
た赤い躍出ししわざからだめらた出る闇をよみ
てHロチヽタニヒ捕めだしてく。波と葉と船と、自
の身のまゝ女の姿は吐きのものを象徴するのを
くぞ、お嬢の事件のふりふりである。

〔95〕御所五郎藏

芳翠筆 by Yoshitoshi

Goshō Gotorō

●若者美代吉の屋形船をあげる儀式では、御園も押された。
さすがに若者のせば、刀で貫かれた女の最期を、見
た赤い躍出ししわざからだめらた出る闇をよみ
てHロチヽタニヒ捕めだしてく。波と葉と船と、自
の身のまゝ女の姿は吐きのものを象徴するのを
くぞ、お嬢の事件のふりふりである。

〔96〕佐野次郎左門

芳翠筆 by Yoshitoshi

Sano Jirōzaemon

●若者美代吉の屋形船をあげる儀式では、御園も押された。
さすがに若者のせば、刀で貫かれた女の最期を、見
た赤い躍出ししわざからだめらた出る闇をよみ
てHロチヽタニヒ捕めだしてく。波と葉と船と、自
の身のまゝ女の姿は吐きのものを象徴するのを
くぞ、お嬢の事件のふりふりである。

〔97〕因果小僧ひ之助

芳翠筆 by Yoshitoshi

Ingakozō Rokunosuke

●若者美代吉の屋形船をあげる儀式では、御園も押された。
さすがに若者のせば、刀で貫かれた女の最期を、見
た赤い躍出ししわざからだめらた出る闇をよみ
てHロチヽタニヒ捕めだしてく。波と葉と船と、自
の身のまゝ女の姿は吐きのものを象徴するのを
くぞ、お嬢の事件のふりふりである。

〔98〕国沢周治

芳翠筆 by Yoshitoshi

Kunisawa Shūji

●Yuruge Moroharu was a feudal lord of the province of Tamba. He had both literary and military accomplishments, but he was too much absorbed in the game of go for his poor go play and killed Kengyo. The ghost story of Kameyama says that the ghost of Kengyo frequently appeared in front of Moroharu. Moroharu's loyal follower Date Yoson is said to have advised Moroharu to enshrine the soul of Kengyo to the Oharano-miya Shrine.

●Toyokuni also painted the atrocious and violent death of Geisha-girl Miyokichi on a house boat. Like the great artist who he was, Yoshitoku energetically painted Miyokichi's last moment; the sword piercing her, her sash loosened, red *kedashi* and her thigh slightly seen. The house boat on the waves, the bloody blade, the girl's body bent over her back, seem to symbolize sex itself. This is really one of his masterpieces.

●He actually existed at Sano in Shimanekei Troops Precinct. He was a farmer at the person of Cenroku and Kuro. Blinded by jealousy, he slew Yatsuhashi, a harbor at Yoshitoku. This incident has been dramatized in kabuki. It is impossible to know why Yatsuhashi does not appear on the scene in which Jirozaemon attacks not-appear-in-a-house where Yatsuhashi lives. Later Yoshitoku painted the scene quite skillfully in his "Shimene Asanuma Nishite".

●Sensansei Yūjin writes as follows: "He is called the right-hand man of Uminu the chivalrous robber, and one of the five gallant men. This is Rokunosuke, and here he kills the adulterer and adulterer. Later he was murdered at Shinagawa. They say that he was put to death by the sword of justice of Uminu in heaven."

●江戸末期 上野の園田流の侠客。本名是田忠次郎。元の園田流格 ($180-10-1 \sim 1850$) をモチエーリー。
浪賊好んで豪傑として有名なものだが、あまた贈答した。
おもむろの酒宴の席で鳴神の音石衛門と争競を小競りあつた——
あつた——
あつた。

●江戸末期 上野の園田流の侠客。本名是田忠次郎。元の園田流格 ($180-10-1 \sim 1850$) をモチエーリー。
浪賊好んで豪傑として有名なものだが、あまた贈答した。
おもむろの酒宴の席で鳴神の音石衛門と争競を小競りあつた——
あつた——
あつた。

伝吉が持參し、血まみれの首を肴に酒くみかわしている
ところ四丙である。

with the severed heads of Naukami-no Ooemon and Teppet in his hands, comes into the room where many *ebakano* (gambler) are giving a drinking party. They are exchanging cups, and the heads become the attraction to the party.

【99】高倉屋助七
Takakuraya Sukeshichi 芳庭

Iakakuraya Sukeshichi

芳年筆 by Yoshitoshi

浦原の掲示板
る。「剣は
なく四人で

卷に横恋慕する鷺の意休から奪いかえす話であ
名誉の伊勢村正、腕はおぼえの助七が、なん
新りつくし」と山々亭有人が語りあげてゐる。

maru from Ikyu the Whiskers who has unfortunately made love to Ageomaki of Muraya. What Sanshiro Ujinaga writes is quite to the point, "The sword is the honor; able Isae Muramasa, the fighter is Sukesaburo, an expert of assured. It is natural that he should slay the farr with

【100】西門屋啓十郎

良

Seimon-ya Keijurō

芳幾筆 by Yoshiiku

吹上げの水のように数条の線となつて飛んでいるさまが、たら、かたえにありし藝鑑げきじゆであつたと記している。しかし、戦せんをうちおろして生首なまくびがとび、首の切断面から血けが

was thought to be a severed head of a nun was in reality a kettle near by. However, the scene of a head being severed by a swing of a broad-axe is fierce for Yoshiaki. Blood is streaming in several lines out of the cut end of the head.

【10】妃姫の於百
Dakki-no Obon

76 by Yoshitoshi

102 鞠ヶ瀬秋夜
Marigase Shuya

文庫 By YOSHIKO

の丸橋忠弥が素材である。捕手にかこまれた忠弥の奮闘ぶりが雄渾である。

【103】直助権兵衛

芳年譜 by Yoshiyoshi

がある。大いに脚筋もきかした太腿のよろこびのひたすら皮膚、握りこぶしの形にまで、異常な芳年の執念がうかがえる絵である。

Yoshitsuki Gombe is of course based on the great Nan-
boku's "Tokaido Yosaka," "Inada Kuro-Shinsuke" and this
painting are generally accepted as the most excellent
"mizam-e" or atmospheric paintings among other sheets in this
series. The round eyeballs, naked sword, stretched skin
like wheat gluten, and the shape of the fist must represent
Yoshitsuki's abnormal obsession.



江戸昭和競作無惨絵英名 千八衆句

一九八八年一月二十日 初版發行

定価
一五〇〇円

著者

花輪和一 丸尾末廣

発行者

小川道明

叢書所

株式会社リプロボート

〒171 東京都豊島区巣鴨二丁目三三番地 電話 九八三六六九

印刷製本

選書者

鈴木一誌 筱浦早

著者

井上聖昭

©K.Hanawa&S.Mano ISBN4-9457-0312-2 C0071

選書者

著者